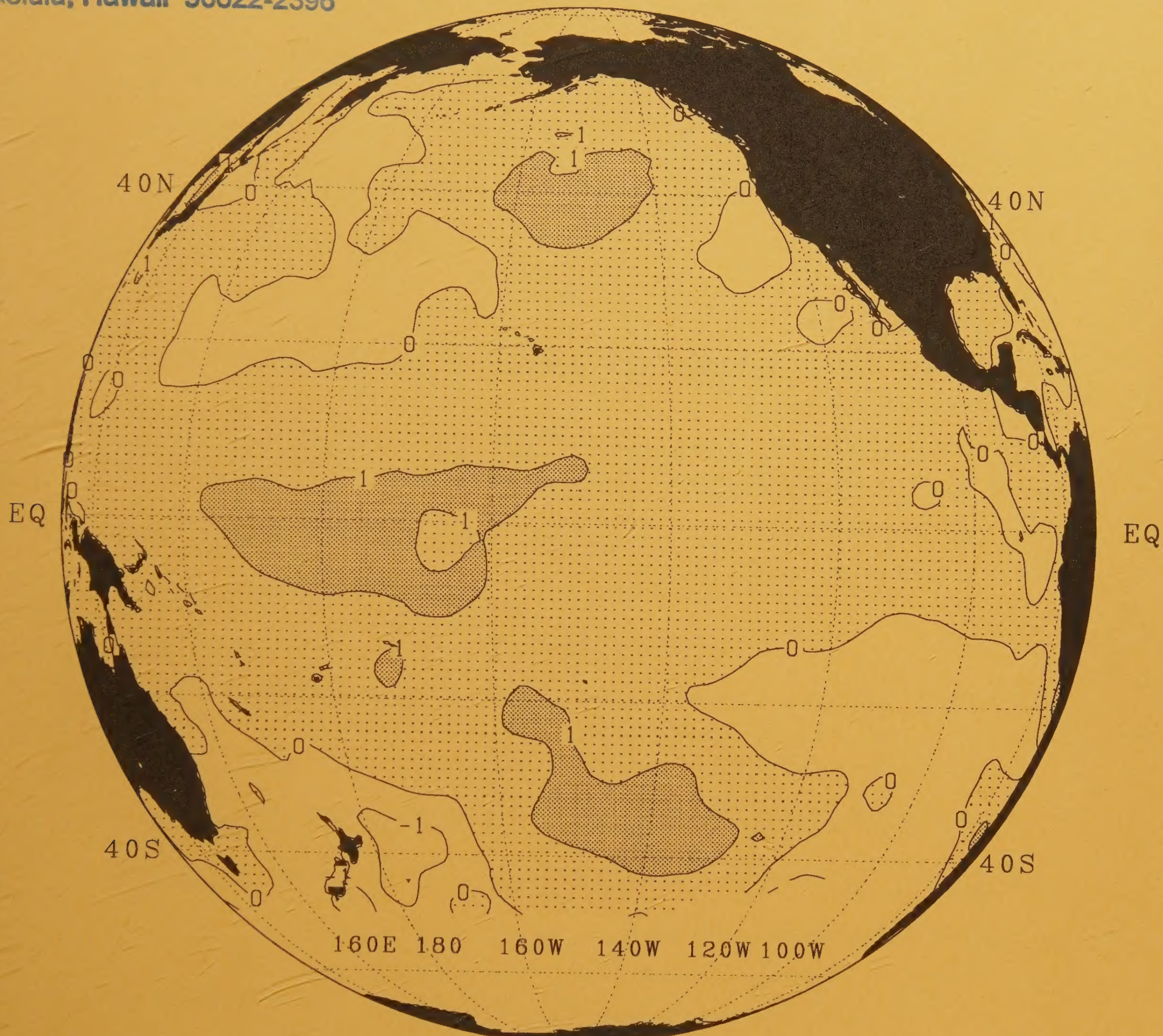
ISSN 1348-5059

気象庁海洋月報

Monthly Ocean Report
January 2005 (No. 145)



Climate and Marine Department
Japan Meteorological Agency
気象庁 気候・海洋気象部

平成17年1月

気象庁海洋月報は、気象庁 気候・海洋気象部 海洋気象情報室で作成しています。

本月報に関する問い合わせは、

〒100-8122 東京都千代田区大手町１-３-４ 気象庁 気候・海洋気象部 海洋気象情報室まで。

電 話 (03) 3212-8341 (内線 5127、5166)

ＦＡＸ (03) 3211-3047

電子メール ocean@climar.kishou.go.jp

Monthly Ocean Report is prepared by the Office of Marine Prediction, Climate and Marine Department, Japan Meteorological Agency.

Correspondence relating to this report may be directed to :

Ippei Eguchi
Head, Office of Marine Prediction
Climate and Marine Department, Japan Meteorological Agency
1-3-4 Ote-machi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8122 Japan
Facsimile: +81-3-3211-3047
e-mail : ocean@climar.kishou.go.jp

表紙は、2005 年 1 月の太平洋の月平均海面水温偏差図です。

陰影部は、平年より高温の海域を示しています。

The figure on the front cover shows the monthly mean SST anomalies for January 2005 in the Pacific Ocean.

Areas of positive anomalies are shaded.

気 象 庁 海 洋 月 報
解 説

以下に、本月報の掲載内容、解析に用いたデータ、図表類の見方等について、目次の項目順に解説する。なお、特に断らない限り、平年値は 1971〜2000 年の 30 年間の資料に基づいて計算している。

1. 海況の特徴

海面水温、黒潮、親潮等の状況について、本月報に掲載する海況図をもとに日本近海及び太平洋の海況の特徴を記述する。

2. 北西太平洋及び日本近海の今月の海況

2.1 海面水温

第１、２、３図： 北西太平洋旬平均海面水温図及び偏差図

日別海面水温解析値である Merged satellite and in-situ data Global Daily Sea Surface Temperature（MGDSST）をもとに、北西太平洋域（0゜- 60゜N, 100゜E - 180゜）について、旬（10 日）毎に緯経度 1°の桝目毎の平均水温値を求めている。MGDSST は、観測船、商船、漁船及びブイ等による海面水温の現場観測データ、及び気象庁で受信した日本近海の NOAA 衛星データ、米国海洋大気局（NOAA）から提供される全球 NOAA 衛星データ、宇宙航空研究開発機構（JAXA）から提供される AQUA 衛星搭載 AMSR-E センサーによるデータを解析に使用している。また、平年値からの差を示した偏差図も掲載する。なお、それぞれの期間内の最大海氷域を図中に示す。右上には気象庁の沿岸水温観測地点（6 か所）の旬平均沿岸水温を表で掲載する。

第４図： 北西太平洋月平均海面水温図及び偏差図

北西太平洋旬平均海面水温値を 3 旬分平均した月平均値をもとに作成する。また、平年値からの差を示した偏差図も掲載する。

2.2　日本近海の海況

第５図：日本近海月平均海面高度分布図と海面海流図

海洋総合解析システムによって計算された海面高度と海面海流の日本近海（24° N-45° N、121° E-158° E）の月平均水平分布図を示す。

海洋総合解析システムは、客観解析システムと海洋データ同化モデルから構成されている。客観解析システムでは、1993-1996 年の平均力学的海面高度（1500db 基準）を第１推定値、衛星の高度計データによる海面高度偏差を修正量とした最適内挿法により海面高度を計算し、海面高度から推定した表層水温・塩分と観測船・ブイ等による表層水温・塩分の現場観測から客観解析を行なっている（倉賀野ほか、2001)。海洋データ同化モデルでは、客観解析システムで得られた表層水温・塩分の解析値と MGDSST を使って表層水温・塩分・海流の格子点データを計算している（蒲地ほか、1998)。客観解析システムの水平解像度は緯経度 1/4°、海洋データ同化モデルの水平解像度は緯度・経度とも可変で 1/4° ～1/2° であり、日本近海で 1/4° である。

以下、キャプションに「(海洋総合解析システムによる)」とある図は、このシステムによって計算、作図したものである。

第６、７、８図　日本近海月平均表層水温図と表層海流図(深さ 100m、200m、400m)

海洋総合解析システムによって求めた水温と水平流速を、海面下 100m、200m 及び 400m の深度に内挿した日本近海（24° N-45° N、121° E-158° E）の月平均水平分布図であり解像度は緯経度 1/4° である。

第９図　旬別黒潮流軸図

観測船、漂流ブイによる海流データ、商船による偏流データや、海面／表層水温分布及び海面力学高度分布などを参考にして推定した、旬毎の黒潮流軸を掲載する。

2.3　北西太平洋の海況

第 10 図：北西太平洋月平均海面高度分布図と海面海流図

海洋総合解析システムによって求めた海面高度と最上層（10m 深）の水平流速である。どちらも北西太平洋（海面高度：0° -56° N，119° E-180° ，海流：12° N-56° N，119° E-180° ）の月平均水平分布である。解像度は海面高度が緯経度 1/4° 、海流については可変で 1/4° ～1/2° である。

第 11、12 図：東経 137° 線、165° 線に沿う月平均表層水温の鉛直断面図

海洋総合解析システムによって求めた月平均水温の深度－緯度断面図である。緯度方向の解像度は1/4° ～1/2° 、深さ方向には 10, 35, 70, 115, 170, 235, 310, 400, 500, 600, 700, 800, 925, 1100, 1350, 1750, 2250, 2750, 3250, 3750 及び 4500m の 21 層で水温が決定されている。東経 137° 線、165° 線は気象庁の海洋気象観測船の主要な定期観測定線(xix 頁参照)である。

3．海況の推移

3.1 海面水温

第 13 図： 海域別旬平均海面水温平年偏差時系列図

日本近海を含む北西太平洋の 15 の海域を選び、各海域の旬平均海面水温の平年偏差について過去 10 年間の時系列を示す。

第 14 図： 沿岸水温時系列図

気象庁では、現在、以下の 6 か所の沿岸水温を 1 時間毎に観測している。当年と前年の 1 時間毎の水温値の時系列を示す。また、毎日 10 時（日本時間）の観測値を旬毎に平均した値である旬平均値は、本月報第 1、2、3 図に掲載しているが、その平年値を併せて示す。

地点名	国際地点番号	位　置	平年値の統計期間
江　差	47428	41° 52'N, 140° 08'E	1985-2000 年
宮　古	47585	39° 39'N, 141° 59'E	1979-2000 年
小名浜	47598	36° 56'N, 140° 54'E	1977-2000 年

浜　田	47755	34° 54'N, 132° 04'E	1986-2000 年
御前崎	47655	34° 37'N, 138° 13'E	1971-2000 年
石　垣	47918	24° 20'N, 124° 09'E	1971-2000 年

3.2　潮位

第 15 図：　沿岸潮位時系列図

気象庁で潮汐観測を行なっている地点のうち、下記の代表的な 9 地点の毎時潮位と毎時潮位偏差（観測潮位と天文潮位の差）の 1 か月の時系列を掲載している。観測には検潮井戸を使い、フース型検潮儀を用いている。縦軸は、観測基準面からの潮位で、陸地の標高がゼロに当たる高さに点線で T.P.（Tokyo Peil）と記入しており、横軸が 1 か月間の日付である。毎時潮位については、平滑化した潮位で、2 時間以下の周期成分は除去している。

（注）T.P.：東京湾平均海面。日本の陸地の標高ゼロにあたる。ただし、父島だけは、標高の定義が T.P.で定められていないため、表示していない。

地点名	位　置
稚　内	45° 24'N, 141° 41'E
釧　路	42° 58'N, 144° 22'E
深　浦	40° 39'N, 139° 56'E
大船渡	39° 01'N, 141° 45'E
布　良	34° 55'N, 139° 49'E
串　本	33° 29'N, 135° 46'E
油　津	31° 35'N, 131° 25'E
那　覇	26° 13'N, 127° 40'E
父　島	27° 06'N, 142° 11'E

なお、時系列図には、朔（新月）の日（NM）、上弦の日（FQ）、望（満月）の日（FM）、

下弦の日（LQ)、を表示している。

3.3　海洋気象ブイロボット

第 16 図：海洋気象ブイロボットの軌跡と観測要素の時系列図

気象庁が日本近海に放流している漂流型海洋気象ブイの漂流軌跡及びブイが観測した気圧、海面水温、有義波高の時系列を示す。観測間隔は通常は 3 時間であるが、有義波高が設定値を超えた場合あるいは気象庁からブイへ指示を送った場合には 1 時間となる。

4.　全球及び太平洋の今月の海況

全球及び太平洋の海況（海面水温、表層水温、海流、海面水位、海面高度）の実況図を示す。

第 17 図：　全球月平均海面水温図及び偏差図

観測船、商船、漁船及びブイ等による海面水温データを用いた、緯経度 2°の桝目毎の全球月平均水温分布図である（気象庁海洋気象部海洋課, 1990)。平年値からの差を示す偏差図も併せて掲載する。また、期間内の最大海氷域も図示してある。海氷データは、気象庁における解析に加えて、米国国立海氷センターから提供されたものをもとに表示している。

第 18、19、20 図：　太平洋月平均表層水温図(深さ 100m、200m、400m)

海洋総合解析システムによって求めた太平洋（20°S-56°N、120°E-80°W）の深さ 100m、200m 及び 400m の月平均水温分布図である。解像度は緯経度 1/4°である。

第 21 図：　太平洋ブイ流跡図

漂流ブイの流跡から海流の流速・流向を推定することができる。全球気象通信網（GTS）を通じて得られた太平洋に展開されている個々の漂流ブイの位置データをもとに 1 か月間の流跡を描いている。○は当該月の個々のブイの最終位置を表す。

第 22 図： 太平洋赤道に沿う表層水温及び偏差の深度時間－経度断面図

気象庁が熱帯太平洋を中心とした海況を把握するために開発した海洋データ同化システム（ODAS）（Kimoto et al., 1997; 坂元・石井, 2003; Ishii et al., 2003）によって求められた、太平洋赤道に沿った東西断面における月平均の表層水温及びその偏差の分布である。水平方向には経度 2.5 度毎に、深さ方向には 800m までの 17 層で水温が決定されている。現システムでは客観解析手法は 3 次元変分法を、同化手法は IAU 法を採用し、水温とともに塩分を解析対象としている。

第 23 図： 太平洋月平均海面水位偏差図.

数字は、太平洋域に展開されている検潮所で観測された月平均海面水位の偏差（1993～2001 年の月平均値からの差）で、海面気圧による補正値を加えている。コンターは衛星の海面高度データから求めた月平均海面高度偏差をもとに描かれており、偏差は検潮所と同様の方法により算出されている。

本図は、WMO／IOC 合同海洋・海上気象専門委員会（JCOMM）太平洋海面水位計画（SLP-Pac）の特別海洋中枢（SOC）であるハワイ大学により作成されている。原則として 1 か月遅れの図を掲載する。

第 24 図： 全球月平均海面高度偏差図

衛星の高度計データによる 60゜N～60゜S の月平均海面高度偏差図である。フランス国立宇宙研究センター（CNES）から提供される海面高度データの暫定値（IGDR: Interim Geophysical Data Record）を品質管理し、客観解析した後（Kuragano & Kamachi, 2000）、1993 年から 1998 年の平均値を差し引いたものを図示している。原則として 1 か月遅れの図を掲載する。

5. 全球及び太平洋の海況の推移

第 25 図： 海域平均海面水温偏差の長期変動

以下に示す 6 つの矩形の海域毎の月平均海面水温偏差の海域平均値と、その 13 か月移

動平均値の過去50年の時系列を示す。

全球：	80°N - 80°S
北太平洋中部：	20°N - 50°N, 150°E - 140°W
南太平洋：	40°S - 20°S, 170°E - 100°W
インド洋：	40°S - 10°N, 50°E - 100°E
北大西洋：	0° - 50°N, 60°W - 10°W
南大西洋：	40°S - 0°, 50°W - 10°E

第26図： 太平洋熱帯域の海面水温偏差時系列図

太平洋熱帯域の下記の4つの海域における月平均海面水温偏差及びその5か月移動平均の時系列を示す。西部海域は負偏差に、その他の海域については、正偏差に斜線を施している。

西　　部（D）：	14°N - 0°, 130°E - 150°E
中　　部（A）：	4°N - 4°S, 160°E - 150°W
東　　部（B）：	4°N - 4°S, 150°W - 90°W
南米沿岸（C）：	0° - 10°S, 90°W - 80°W

第1表： 太平洋熱帯域の大気及び海洋の監視指数

第26図に示した各海域の海面水温及び偏差、南方振動指数及びタヒチ及びダーウィンの地上気圧平年偏差について、最近3年間の月毎の数値を表にまとめたものである。

第27図： 赤道に沿った海面水温及び偏差の時間－経度断面図

全球を対象として赤道に沿う（2°N - 2°Sの海域）月平均海面水温及び偏差の時間変動を示す。

第 28 図：太平洋の赤道に沿う海洋表層の貯熱量及び偏差の時間－経度断面図

海洋データ同化システム（ODAS）によって計算された太平洋の赤道に沿った貯熱量及びその偏差について、最近 3 年間の時間変動を示す。貯熱量は、

$$貯熱量 = \sum(\rho_i T_i D_i)/\sum(\rho_i D_i)$$

ρ ：密度，T ：温度，D ：各層の厚さ

i : 層の番号＝1～12　(水深 0～260 m)

と定義しており、海面から水深 260 mまでの平均水温と考えてよい。

第 29 図：　太平洋赤道域の表層水温の時間－深度断面図

ODAS によって計算された、太平洋赤道域における西部（160°E)、中部（140°W)、東部（110°W）における水深 400 mまでの表層水温の時間変動を示す。

第 30 図：　海氷

気象庁では、オホーツク海沿岸の気象官署で海氷観測を行うとともに、気象衛星、船舶、航空機等による観測データも収集し、海氷情報を作成している。本月報には、オホーツク海に海氷の見られる 11 月から翌年の 7 月にかけては、気象庁で作成しているオホーツク海の海氷図と同海域の半旬毎の海氷域面積経過図を掲載する。オホーツク海の海氷図については原則として当月 15 日の解析のものを示す。8 月から 10 月については、海氷に関する統計結果等を示す。

また、これらに加えて、米国国立海氷センターのデータから北極域及び南極域の海氷図を作成し、年間を通じて掲載する。

6. その他

第 31 図　海洋気象観測船による海洋観測結果

気象庁では、5 隻の海洋気象観測船（気象庁本庁（東京）及び函館・舞鶴・神戸・長崎の各海洋気象台に 1 隻ずつ）により、日本近海、北西太平洋及び赤道域の海洋観測を行っている。各観測船により実施された、水温、塩分、温室効果ガス等の海洋観測結果の概要

を掲載する。本解説の末尾に気象庁の海洋気象観測船の主要な定期観測線を示す図を掲載している。

第 32 図： 測点分布図

気象庁に通報されたり、GTS を介して収集した SHIP 報（海面水温、海上気象を報ずる）、BATHY/TESAC 報（表層水温・塩分、海流を報ずる）、BUOY 報（漂流ブイ・定置ブイにより観測された海面水温、表層水温を報ずるもので、漂流ブイの位置の変化からは海流が推定できる）及び TRACKOB 報（海面水温、偏流を報ずる）の 1 か月間の分布状況及びそれらのデータ数を示す。

参考文献

Ishii, M., M. Kimoto and M. Kachi (2003): Historical ocean subsurface temperature analysis with error estimates. Mon. Wea. Rev., 131, 51-73.

蒲地政文・倉賀野連・吉田隆・Francesco Uboldi・吉岡典哉（1998）: 中・高緯度海洋データ同化システムの開発. 測候時報, 65, 特別号, 1-19.

Kimoto, M., I. Yoshikawa, and M. Ishii (1997): An Ocean Data Assimilation System for Climate Monitoring. J. Meteor. Soc. Japan, 75, 471-487.

気象庁海洋気象部海洋課 (1990): 旬平均海面水温解析. 測候時報, 57, 6, 283-291.

Kuragano, T. and M. Kamachi (2000): Global Statistical Space-Time Scales of Oceanic Variability Estimated from the TOPEX/POSEIDON Altimeter Data. J. Geophys. Res., 105, 955-974.

倉賀野連・杉本悟史・吉岡典哉・吉田隆・蒲地政文(2001): 高度計データと現場表層観測データを用いた太平洋表層水温・塩分の客観解析. 測候時報, 68, 3-6 合併号, 99-119.

坂元賢治・石井正好(2003): 全球海洋データ同化システムの改良. 測候時報, 70, 特別号, 131-140.

Introduction to the Monthly Ocean Report

1. Highlights

Oceanographic conditions in the seas adjacent to Japan and in the Pacific Ocean are summarized in this report based on various oceanographic and meteorological products of JMA.

2. Oceanographic conditions in the western North Pacific and seas adjacent to Japan

2.1 Sea Surface Temperature (SST)

Figs. 1, 2 and 3 Ten-day mean SST and anomalies in the western North Pacific

Ten-day mean SSTs and anomalies in the western North Pacific for 1°x 1° grid points are based on merged satellite and in-situ data Global Daily Sea Surface Temperature (MGDSST) analysis. MGDSSTs are analyzed by the optimal interpolation method for space-time decomposed satellites' SST anomalies. The satellites' data are provided by the National Oceanic and Atmospheric Administration, USA (NOAA), and the Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA). Anomalies are computed with reference to JMA's climatology for the period from 1971 to 2000.

Fig. 4 Monthly mean SST and anomalies in the western North Pacific

Monthly mean SSTs are arithmetic averages of the consecutive three ten-day mean analyzed SSTs of the relevant month. Anomalies are computed with reference to JMA's climatology (1971-2000).

2.2 Oceanographic conditions in seas adjacent to Japan

Fig. 5 Monthly mean sea surface height and current

Sea surface height (SSH) and sea surface currents are calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System. Both figures show monthly mean horizontal distribution in seas adjacent to Japan (24° N-45° N, 121° E-158° E). Their horizontal resolutions are 1/4° latitudinally and longitudinally.

The Ocean Comprehensive Analysis System consists of an objective analysis system and an

ocean assimilation model. In the objective analysis system, SSH is calculated by the optimum interpolation using hydrographic SSH (referred to 1500 db) averaged over 1993-1996 as a first guess, and SSH anomalies of satellites' altimeter data as observed values (Kuragano et al., 2001). Temperature and salinity fields are calculated by the objective analysis system using the SSH values and in-situ data. In the assimilation model (Kamachi et al., 1998), subsurface temperature, salinity, current values are calculated using objectively analyzed subsurface temperatures, salinities and MGDSSTs. The horizontal resolutions of the objective analysis system are 1/4° latitudinally and longitudinally, and those of the model are variable and 1/4° ~1/2° .

Figs. 6, 7 and 8 Monthly mean subsurface temperature and current at the depths of 100 m, 200 m and 400 m

Subsurface temperatures and currents are calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System. They are interpolated to the depths of 100 m, 200 m and 400 m, and are shown as a monthly mean horizontal distribution in seas adjacent to Japan (24° N-45° N, 121° E-158° E). Their horizontal resolutions are 1/4° latitudinally and longitudinally.

Fig. 9 Location of the Kuroshio axis

The ten-day mean Kuroshio axes are shown for the past about one year.

2.3 Oceanographic conditions in the western North Pacific

Fig. 10 Monthly mean sea surface height and current in the western North Pacific

SSH and sea surface currents are calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System. Both figures show monthly mean horizontal distribution in the western North Pacific (sea surface height : 0° -56° N, 119° E-180° , sea surface currents : 12° N-56° N, 119° E-180°). Horizontal resolutions of SSHs are 1/4° latitudinally and longitudinally, and those of currents are variable and 1/4° ~1/2° .

Figs. 11 and 12 Vertical cross section of monthly mean temperature along 137° E and 165° E

Vertical distribution of monthly mean temperatures calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System is shown along the longitudinal lines of 137° E and 165° E, which are the main observation lines of JMA's research vessels (see page xix). Latitudinal resolution is variable and 1/4° ～1/2° . Temperature is calculated in 21 levels, at depths of 10, 35, 70, 115, 170, 235, 310, 400, 500, 600, 700, 800, 925, 1100, 1350, 1750, 2250, 2750, 3250, 3750 and 4500 m.

3. Temporal variation in the western North Pacific and seas adjacent to Japan

3.1 Sea Surface Temperature

Fig. 13 Time series of ten-day mean SST anomalies in the western North Pacific

The regional mean of the ten-day mean sea surface temperature anomalies is shown as a time series in 15 areas in the western North Pacific. Anomalies are computed from JMA's climatology (1971-2000).

Fig. 14 Time series of water temperatures along the coasts of Japan

JMA is monitoring coastal water temperature every hour at the following six stations. The hourly coastal water temperatures and their ten-day mean climatological values are plotted.

Esashi (47428)	41° 52'N, 140° 08'E
Miyako (47585)	39° 39'N, 141° 59'E
Onahama (47598)	36° 56'N, 140° 54'E
Hamada (47755)	34° 54'N, 132° 04'E
Omaezaki (47655)	34° 37'N, 138° 13'E
Ishigaki (47918)	24° 20'N, 124° 09'E

3.2 Sea Level

Fig. 15 Time series of sea level and its anomalies along the coasts of Japan

Hourly sea level observations (upper line) and sea level anomalies (lower line) are taken at

the nine stations listed below. Short term variations have been removed from the raw data.

Wakkanai	45° 24'N, 141° 41'E
Kushiro	42° 58'N, 144° 22'E
Fukaura	40° 39'N, 139° 56'E
Ofunato	39° 01'N, 141° 45'E
Mera	34° 55'N, 139° 49'E
Kushimoto	33° 29'N, 135° 46'E
Aburatsu	31° 35'N, 131° 25'E
Naha	26° 13'N, 127° 40'E
Chichijima	27° 06'N, 142° 11'E

Dates of new moon (NM), first quarter (FQ), full moon (FM), and last quarter (LQ) and T.P. (Tokyo Peil; Mean sea level of Tokyo Bay) are shown in the figures.

3.3 JMA Ocean Data Buoy

Fig. 16 Ocean Data Buoy Observations

The trajectories of the drifting buoys deployed by JMA and the time series of three elements, namely, sea level pressure, SST and significant wave height observed by them, are shown. The usual observation interval is 3 hours. When significant waves are higher than thresholds, the buoy changes automatically to the hourly observation.

4. Oceanographic conditions in the global ocean and Pacific Ocean

Fig. 17 Monthly mean SST and anomalies in the global ocean

Monthly mean sea surface temperatures over the global ocean are determined for 2° x 2° grid points (Oceanographical Division, Marine Department, JMA, 1990). Anomalies are departures from the 1971-2000 base period monthly mean.

Figs. 18, 19 and 20 Monthly mean subsurface temperature at the depths of 100 m, 200 m and 400 m in the Pacific Ocean

Subsurface temperatures are calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System. All figures show monthly mean horizontal distribution in the Pacific Ocean (20° S-56° N, 120° E-80° W). Horizontal resolutions are 1/4° latitudinally and longitudinally.

Fig. 21 Movements of drifting buoys in the Pacific Ocean

Ocean currents can be derived from movements of satellite-tracked drifting buoys. Tracks of each buoy in the Pacific are shown with small circles representing the last positions for the month. The locations of the drifting buoys are obtained through the GTS.

Fig. 22 Depth-longitude sections of temperature and anomalies along the equator in the Pacific Ocean

Subsurface temperature and anomalies derived from the Ocean Data Assimilation System (ODAS) (Kimoto et al., 1997; Sakamoto and Ishii, 2003; Ishii et al., 2003), which was developed by JMA for monitoring mainly the tropical Pacific Ocean conditions. Temperature grid spacing is 2.5 degrees in longitude and 17 vertical levels in the upper 800 m. In the present system, a three-dimensional variational analysis scheme and an Incremental Analysis Update scheme are adopted. Salinity is analyzed as well as temperature.

Fig. 23 Monthly sea level anomalies in the Pacific Ocean

The variation of the monthly sea level has a close correlation with that of the thickness of the surface mixed layer. Monthly sea level anomalies adjusted for atmospheric pressure are shown. Anomalies are departures from the 1993-2001 base period monthly means. The figure is prepared by the SOC of JCOMM SLP-Pac, Department of Oceanography, University of Hawaii.

Fig. 24 Monthly sea surface height anomalies in the global ocean

The global monthly sea surface height anomalies between 60° N and 60° S derived from the satellite altimeter data are shown. The sea surface height values are objectively analyzed with the IGDR (Interim Geophysical Data Record) which are provided on a near-realtime basis by CNES (Centre National d'Etudes Spatiales), subtracting the 1993-1998 averaged values. The quality control and objective analysis procedures proposed by Kuragano and Kamachi (2000) are adopted.

5. Temporal variations in the global ocean and the Pacific ocean

Fig. 25 Long-term variations of monthly mean SST anomalies in the global ocean

Based on monthly mean sea surface temperatures over the global ocean for each two-degree latitude and longitude grid point and their climatology for the period from 1971 to 2000, the time series of monthly mean SST anomalies are shown for the past fifty years for the following 6 rectangular areas in the global ocean:

Global ocean	80° N - 80° S
Central North Pacific	20° N - 50° N, 150° E - 140° W
South Pacific	40° S - 20° S, 170° E - 100° W
Indian Ocean	40° S - 10° N, 50° E - 100° E
North Atlantic	0° - 50° N, 60° W - 10° W
South Atlantic	40° S - 0° , 50° W - 10° E

Fig. 26 Time series of SST anomalies in the tropical Pacific Ocean

The regional mean SST anomalies for the region D, A, B and C are determined from the climatology (1971-2000) calculated by JMA. The D, A, B and C regions are the western (14° N - 0° , 130° E - 150° E), central (4° N - 4° S, 160° E - 150° W), eastern (4° N - 4° S, 150° W - 90° W), tropical Pacific and off west coast of tropical South America (0° - 10° S, 90° W - 80° W), respectively.

Table 1 Atmospheric and oceanic monitoring indices in the tropical Pacific Ocean

The monthly values of the regional mean SSTs and their anomalies in the above mentioned regions D, A, B and C in the tropical Pacific, and the Southern Oscillation Index and monthly mean sea level pressure anomalies at Tahiti and Darwin are shown for the past three years.

Fig. 27 Time-longitude sections of SST and its anomalies along the equator

Time-longitude sections of SST and its anomalies along the equator in the global ocean are shown. Anomalies are computed from JMA's climatology (1971-2000).

Fig. 28 Time-longitude sections of ocean heat content and anomalies along the equator in the Pacific Ocean

Time-longitude sections of Ocean Heat Content (OHC) and its anomalies in the upper 260 m along the equator in the Pacific Ocean are shown. The OHC is defined as follows:

$$\mathrm{OHC} = \sum(\rho_i T_i D_i)/\sum(\rho_i D_i)$$

where ρ : density, T : temperature, D : layer thickness and i : layer number (1 to 12, i.e., 0 m to 260 m). OHC is roughly considered to be the average temperature from the surface to the depth of 260 m.

Fig. 29 Time-depth sections of equatorial Pacific subsurface temperatures

Time-depth sections of the equatorial (2° N - 2° S) subsurface temperature derived from ODAS for the western Pacific (160° E), the central Pacific (140° W) and the eastern Pacific (110° W) are shown.

Fig. 30 Sea ice

JMA monitors the sea ice conditions (amount, distribution, etc.) at its meteorological field offices along the coast of the Sea of Okhotsk in winter. Based on the result of the monitoring, together with sea ice information data observed by meteorological satellites, ships and aircraft,

JMA makes various sea ice information products. "Sea ice chart in the Sea of Okhotsk" and "Time series of 5-day sea ice area in the Sea of Okhotsk" appear in this Monthly Ocean Report from November through July.

Based on the data provided by the U.S. National Ice Center, JMA makes "Sea ice charts in the Arctic and in the Antarctic." They appear in this Monthly Ocean Report throughout the year.

6. Others

Fig. 31 Oceanographic observations on-board research vessels of JMA

JMA has five research vessels: Ryofu Maru is operated by the headquarters, and the others (Kofu Maru, Seifu Maru, Keifu Maru and Chofu Maru) are operated by four Marine Observatories (Hakodate, Maizuru, Kobe and Nagasaki). They observe sea water temperature, salinity, etc., and monitor greenhouse gases in the ocean and the atmosphere in the seas adjacent to Japan and in the western North Pacific and equatorial regions. JMA's main observation sections are shown at the end of this guide, and the results of oceanographic observations on board JMA's vessels are shown on this page.

Fig. 32 Geographical distribution of oceanographic data

Geographical distribution charts of SHIP, BATHY/TESAC, BUOY and TRACKOB messages collected through the Global Telecommunication System (GTS) in a month are shown.

References:

Ishii, M., M. Kimoto and M. Kachi (2003): Historical ocean subsurface temperature analysis with error estimates. Mon. Wea. Rev., 131, 51-73.

Kamachi, M., T. Kuragano, T. Yoshida, F. Uboldi and N. Yoshioka (1998): Development of mid-to high- latitude Ocean Data Assimilation System (in Japanese). Weather Service Bull., 65, Special issue, 1-19.

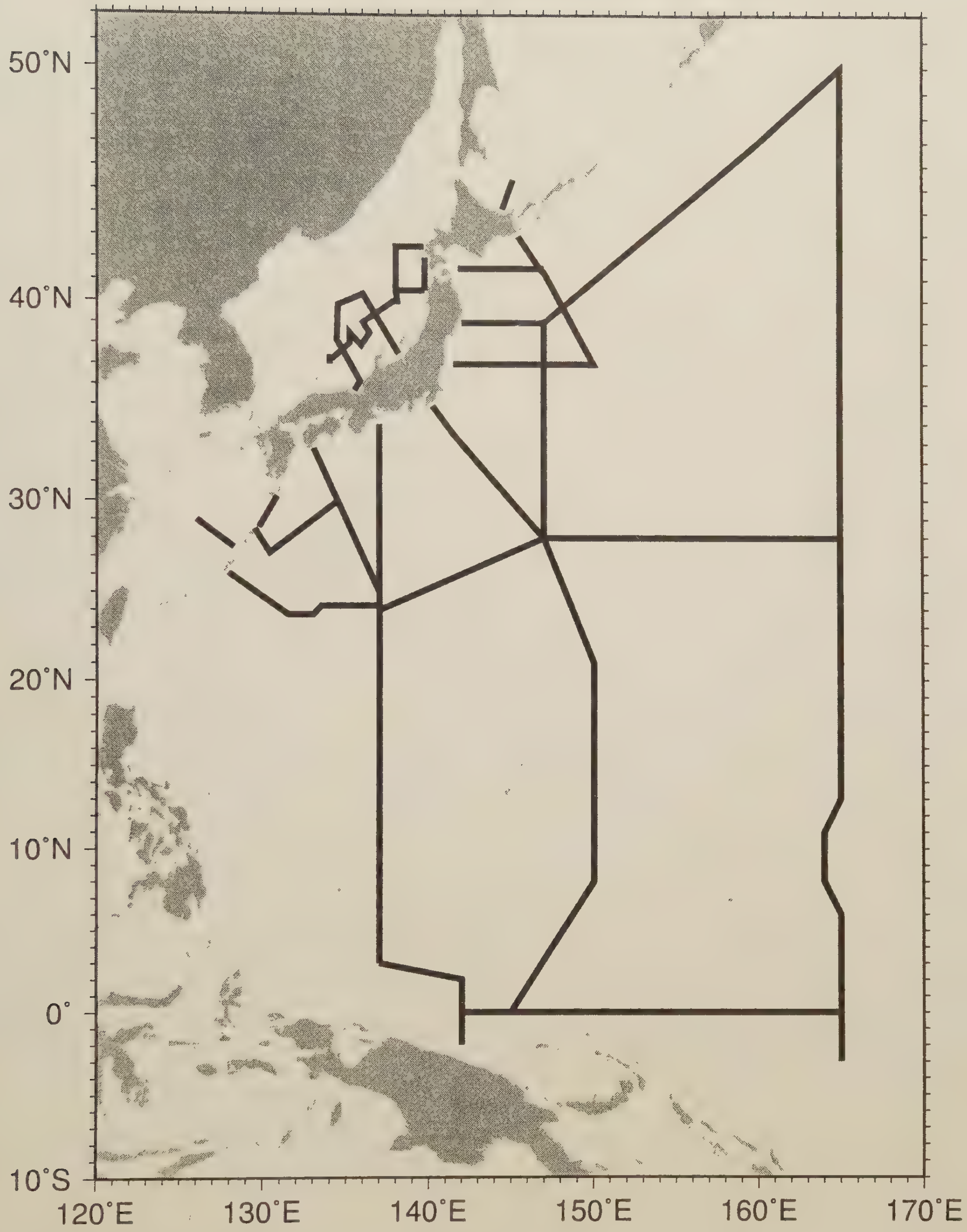
Kimoto, M., I. Yoshikawa and M. Ishii (1997): An Ocean Data Assimilation System for Climate Monitoring. J. Meteor. Soc. Japan, 75, 471-487.

Kuragano, T. and M. Kamachi (2000): Global Statistical Space-Time Scales of Oceanic Variability Estimated from the TOPEX/POSEIDON Altimeter Data. J. Geophys. Res., 105, 955-974.

Kuragano, T., S. Sugimoto, N. Yoshioka, T. Yoshida and M. Kamachi (2001): Dual-Resolution Objective Analysis of Altimeter and Ship Combined data for Mapping Subsurface Temperature and Salinity (in Japanese). Weather Service Bull., 68, 99-119.

Oceanographical Division, Marine Department, JMA (1990): An objective analysis of ten-day mean sea surface temperature (in Japanese). Weather Service Bull., 57, 283-291.

Sakamoto, K. and M. Ishii (2003): Improvement of Global Ocean Data Assimilation System (in Japanese). Weather Service Bull., 70, Special issue, 131-140.



気象庁の主要な定期観測線

Main observation sections of JMA

目　次

---

* MGDSST (Merged satellite and *in-situ* data Global Daily SST)を使用している。
** 従来と同様の、現場観測による海面水温をもとにした解析値を使用している。

Table of Contents

* Based on MGDSST (Merged satellite and *in-situ* data Global Daily SST).

** Based on the traditional analysis using *in-situ* SSTs.

海況の特徴（２００５年１月）

日本近海の海況

海面水温は、日本海から九州の西にかけての海域、日本の南、及び東海沖から房総半島沖にかけての海域で平年より1℃以上高かった。秋田沖では+2℃を超える正偏差が見られた。一方、三陸沖では平年より0.5℃以上低かった（第４図）。

黒潮は、足摺岬に接岸した後、紀伊半島から東海沖を大きく蛇行し、31° N付近まで南下していた。その後、139° E付近を北上し、三宅島付近を通過して、上・下旬は房総半島に接岸して北東に、中旬は房総半島沖を北東に流れていた（第９図）。

太平洋の海況

太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ全域で平年より高く、165° Eから170° Wにかけてと160° W付近の海域では平年より1℃以上高かった。

北太平洋の海面水温は、40° Nに沿った165° Wから140° Wにかけての海域で平年より1℃以上高かった（第１７図）。

Highlights January 2005

Seas adjacent to Japan

SSTs were more than 1℃ above normal from the Japan Sea to the west of Kyushu, in the seas south of Japan, and from the area off Tokai to the area off the Boso Peninsula. Positive SST anomalies exceeding +2℃ were found off Akita. SSTs were more than 0.5℃ below normal off Sanriku (Fig. 4).

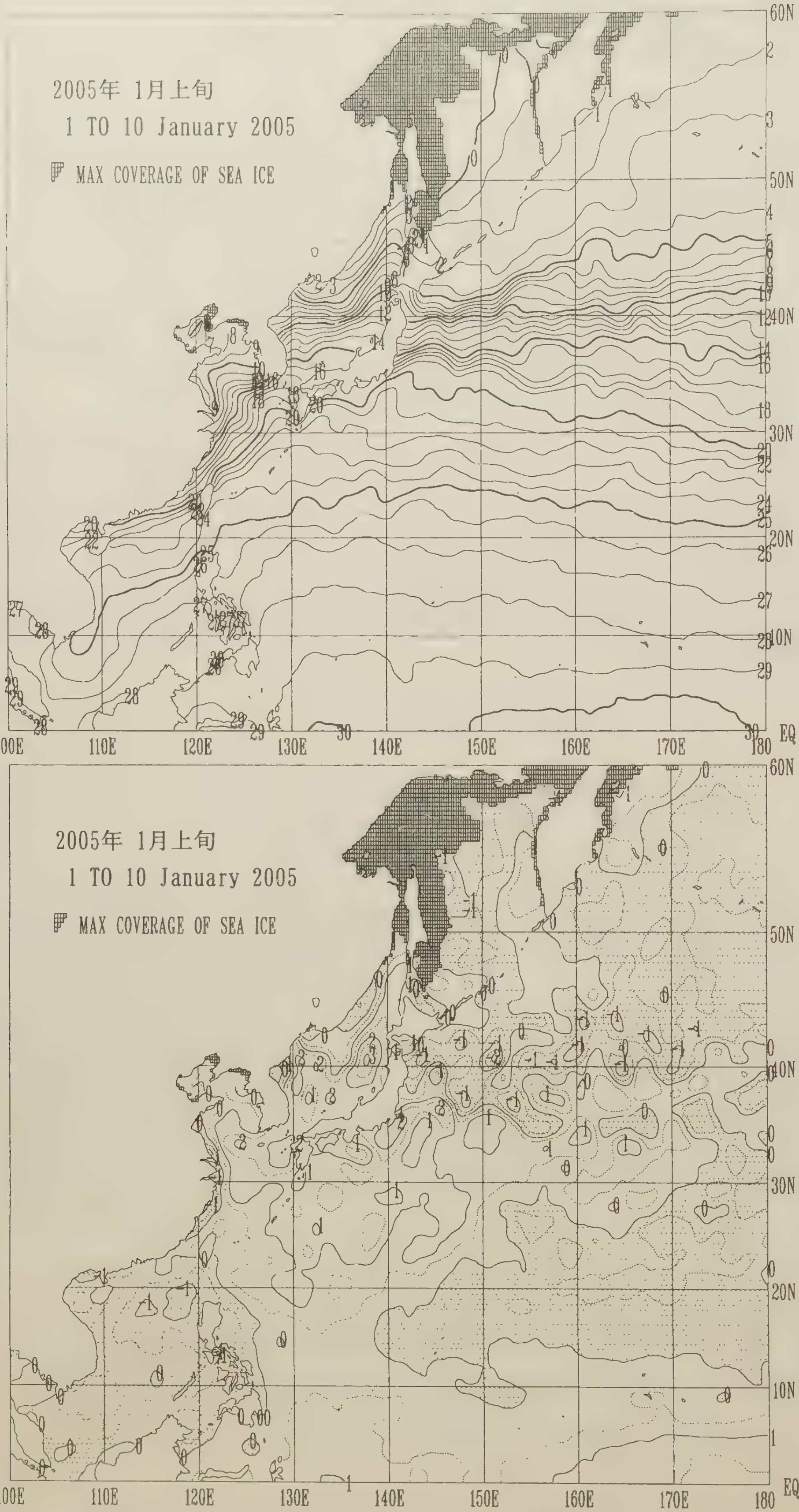
The Kuroshio flowed close to Ashizuri Misaki, and meandered significantly from the area off the Kii Peninsula to the area off Tokai. The southernmost position of the meander was at about 31°N. After flowing northward along 139°E, it passed near Miyake Island and flowed NE-ward, passing close to the Boso Peninsula in early and late January and off the Boso Peninsula in the rest of the month (Fig. 9).

Pacific Ocean

In the equatorial Pacific, SSTs were generally above normal. Positive SST anomalies exceeding +1℃ were found in the seas between 165°E and 170°W, and around 160°W.

In the North Pacific, SSTs were more than 1℃ above normal along 40°N between 165°W and 140°W (Fig. 17).

Ten-day mean SST & Anomalies



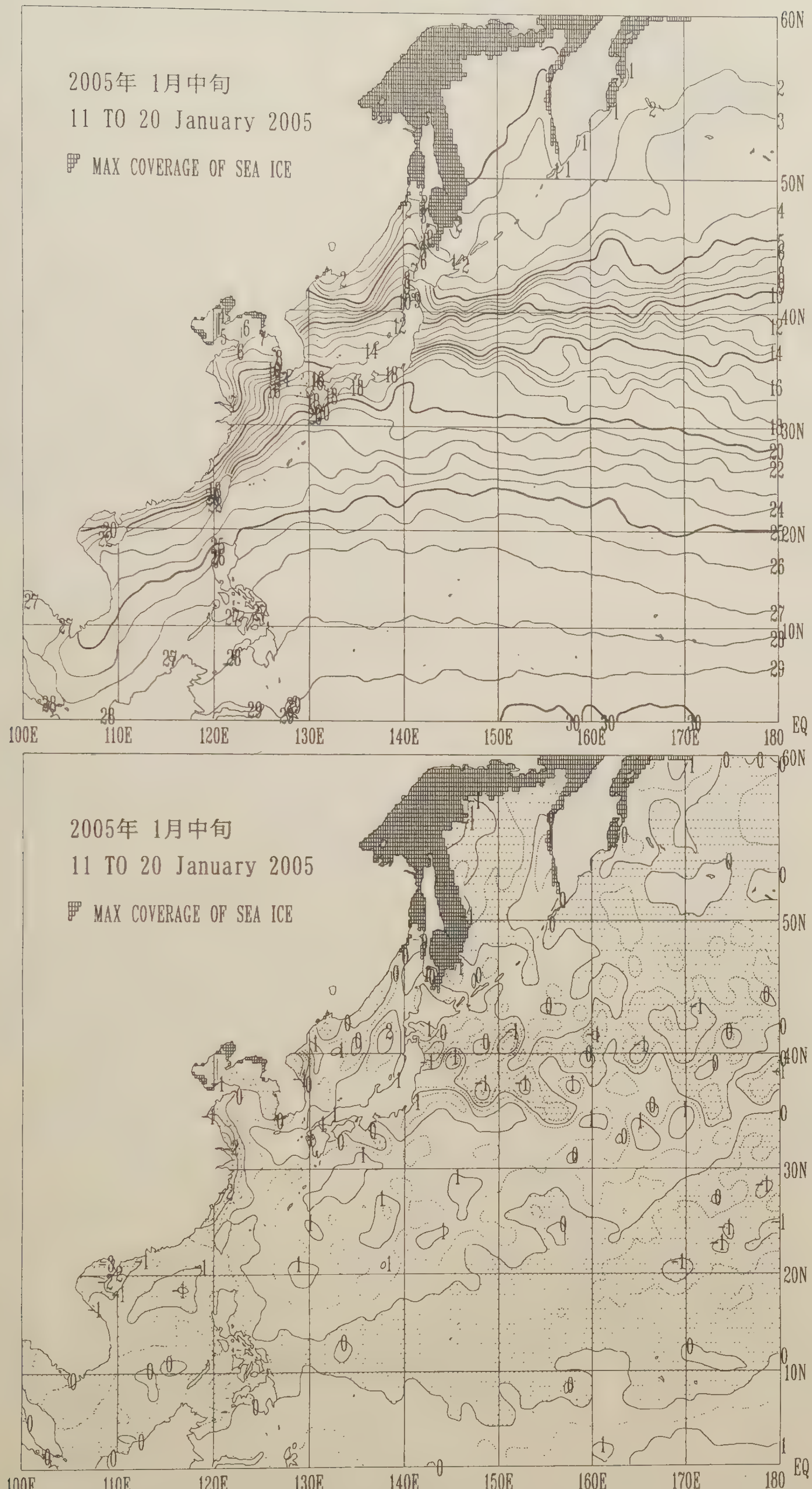
旬平均沿岸水温(℃)
Coastal Water Temperature

地点名 (Index Number)	水温 Temp.	偏差 Anom.
石　垣(47918)	21.4	-0.2
御前崎(47655)	13.3	0.9
小名浜(47598)	11.1	-0.6
宮　古(47585)	9.8	-0.3
江　差(47428)	5.9	-0.9
浜　田(47755)	13.3	0.1

第1図 北西太平洋旬平均海面水温図(上)及び偏差図(下) (2005年 1月上旬)

Fig.1 Ten-day mean SST (top) and anomalies (bottom) in the western North Pacific for the 1st ten-day period in January 2005. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Contour interval is 1°C and additional anomaly contours of 0.5°C are shown by broken lines. Negative anomalies are spotted.

Ten-day mean SST & Anomalies



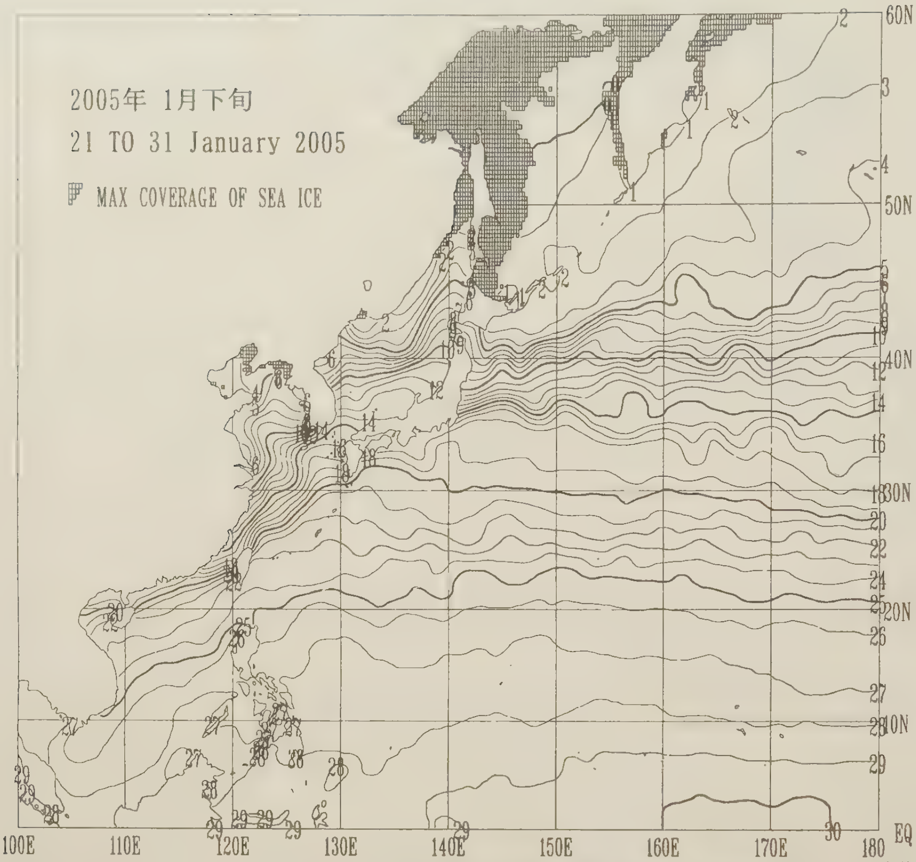
旬平均沿岸水温(℃)
Coastal Water Temperature

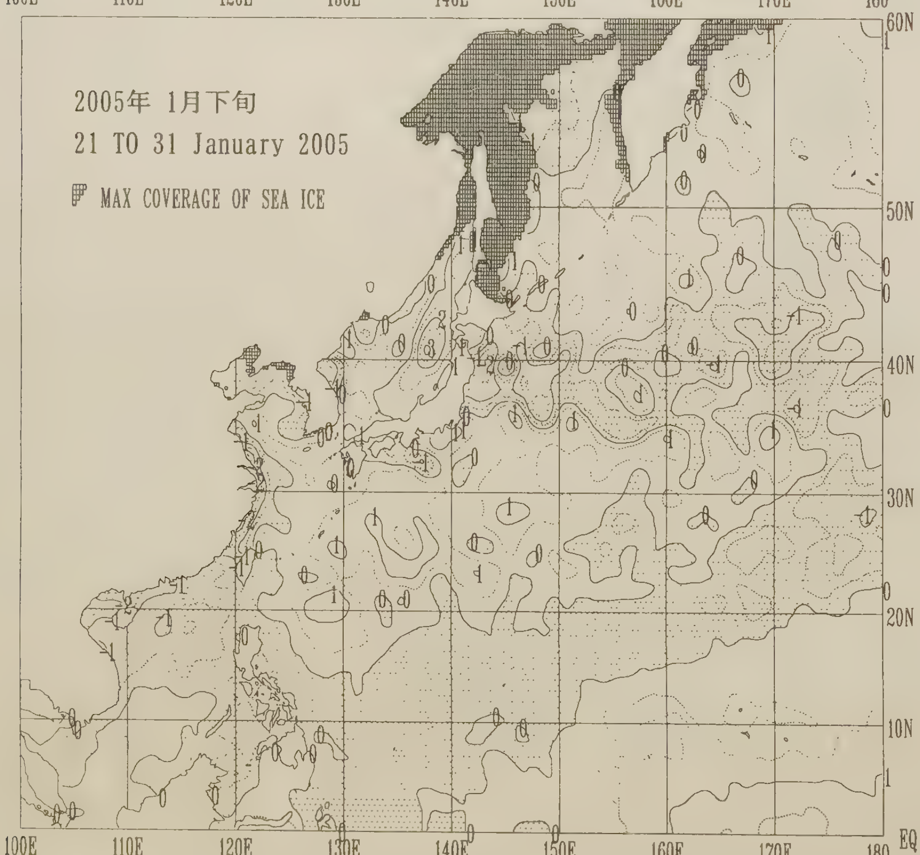
地点名 (Index Number)	水温 Temp.	偏差 Anom.
石　垣(47918)	21.1	-0.2
御前崎(47655)	12.2	0.6
小名浜(47598)	10.2	-0.8
宮　古(47585)	8.6	-0.7
江　差(47428)	6.2	-0.1
浜　田(47755)	11.9	-0.9

第2図 北西太平洋旬平均海面水温図(上)及び偏差図(下) (2005年 1月中旬)

Fig. 2 Ten-day mean SST (top) and anomalies (bottom) in the western North Pacific for the 2nd ten-day period in January 2005. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Contour interval is 1°C and additional anomaly contours of 0.5°C are shown by broken lines. Negative anomalies are spotted.

Ten-day mean SST & Anomalies



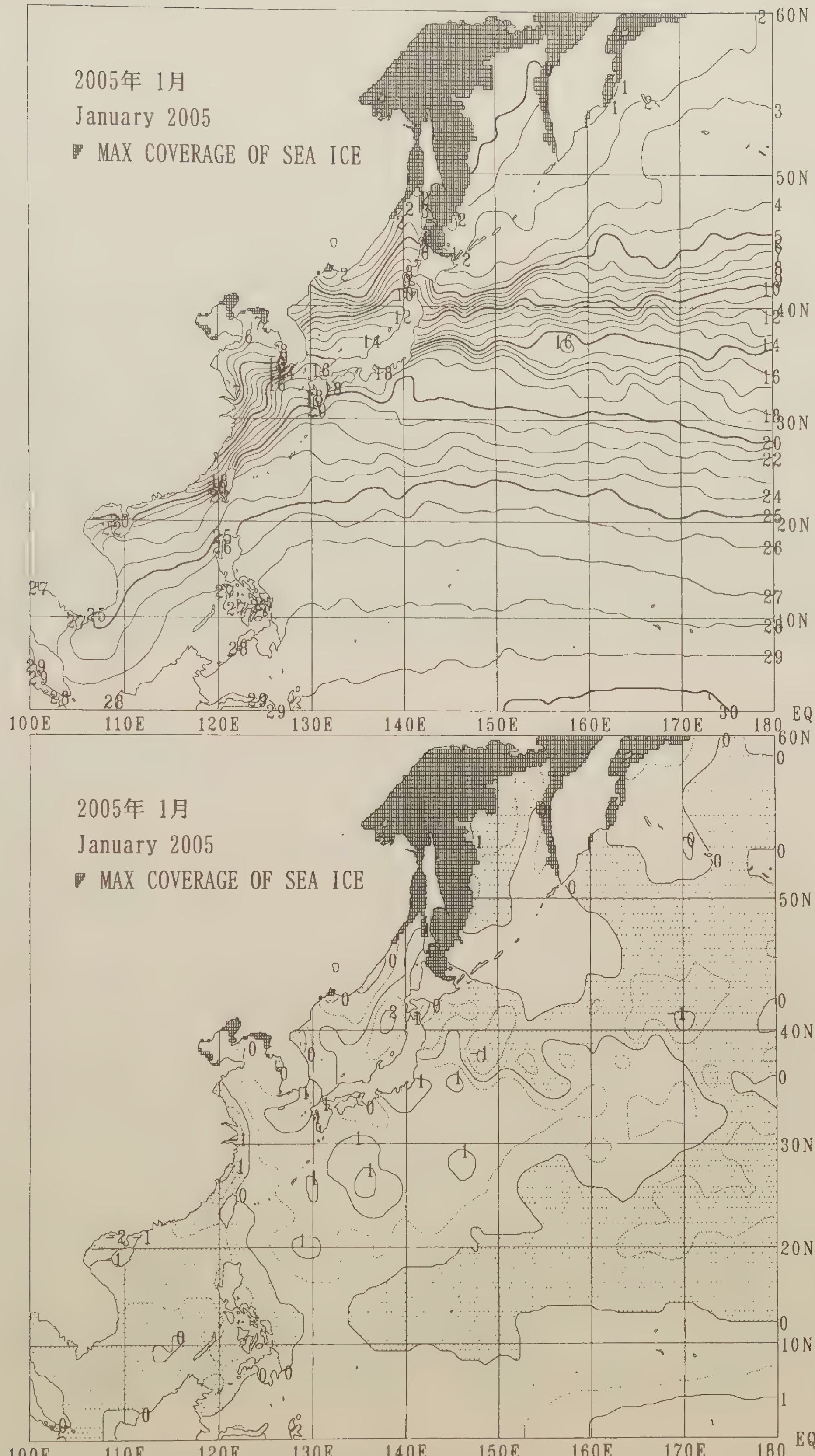


旬平均沿岸水温(℃)
Coastal Water Temperature

地点名 (Index Number)	水温 Temp.	偏差 Anom.
石　垣(47918)	21.9	0.7
御前崎(47655)	12.5	1.5
小名浜(47598)	9.9	-0.5
宮　古(47585)	8.3	-0.1
江　差(47428)	7.2	2.0
浜　田(47755)	12.3	0.6

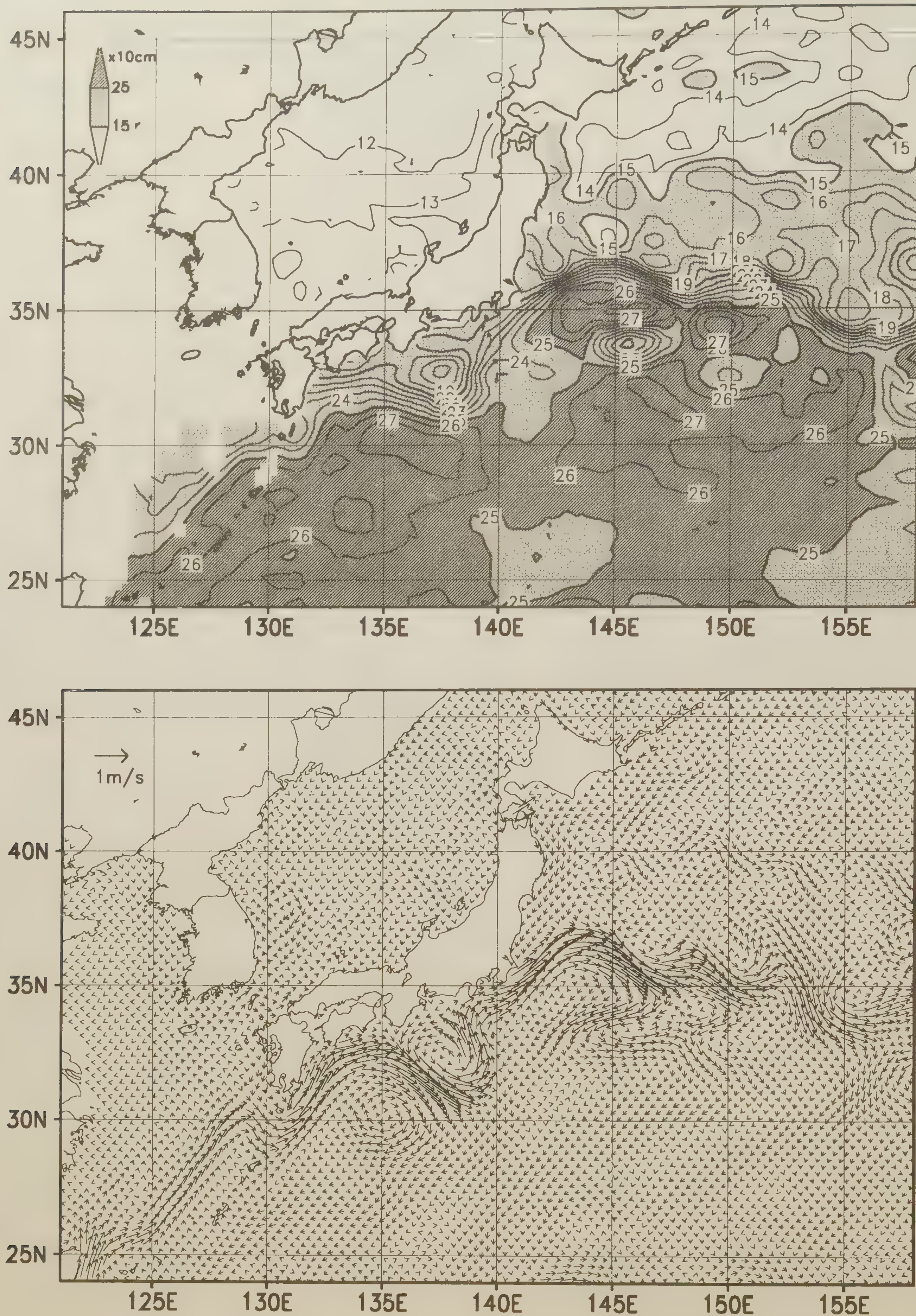
第3図 北西太平洋旬平均海面水温図(上)及び偏差図(下) (2005年 1月下旬)

Fig. 3 Ten-day mean SST (top) and anomalies (bottom) in the western North Pacific for the 3rd ten-day period in January 2005. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Contour interval is 1°C and additional anomaly contours of 0.5°C are shown by broken lines. Negative anomalies are spotted.



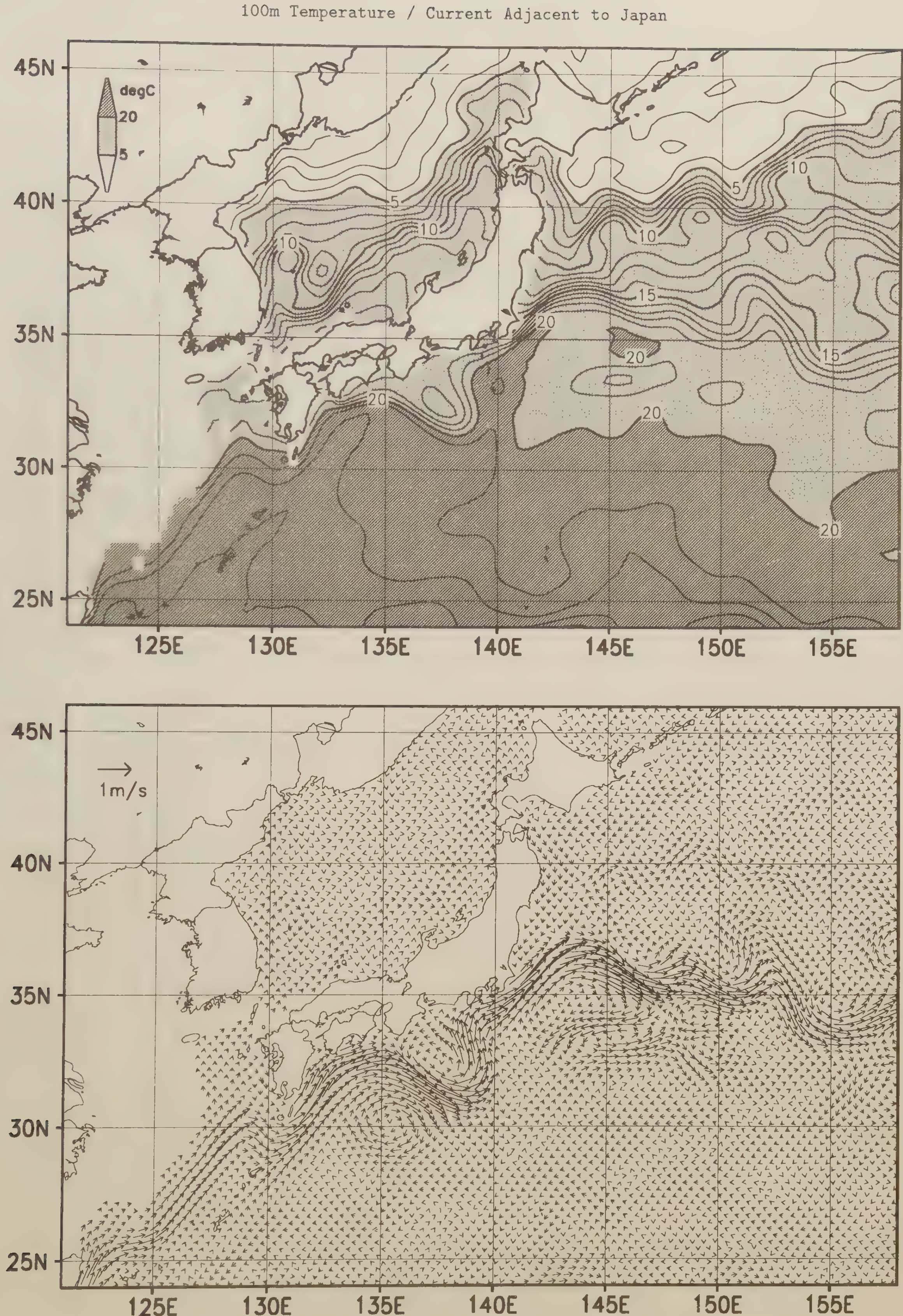
第4図 北西太平洋月平均海面水温図(上)及び偏差図(下)(2005年 1月)

Fig. 4 Monthly mean SST (top) and anomalies (bottom) in the western North Pacific for January 2005. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Contour interval is 1°C and additional anomaly contours of 0.5°C are shown by broken lines. Negative anomalies are spotted.



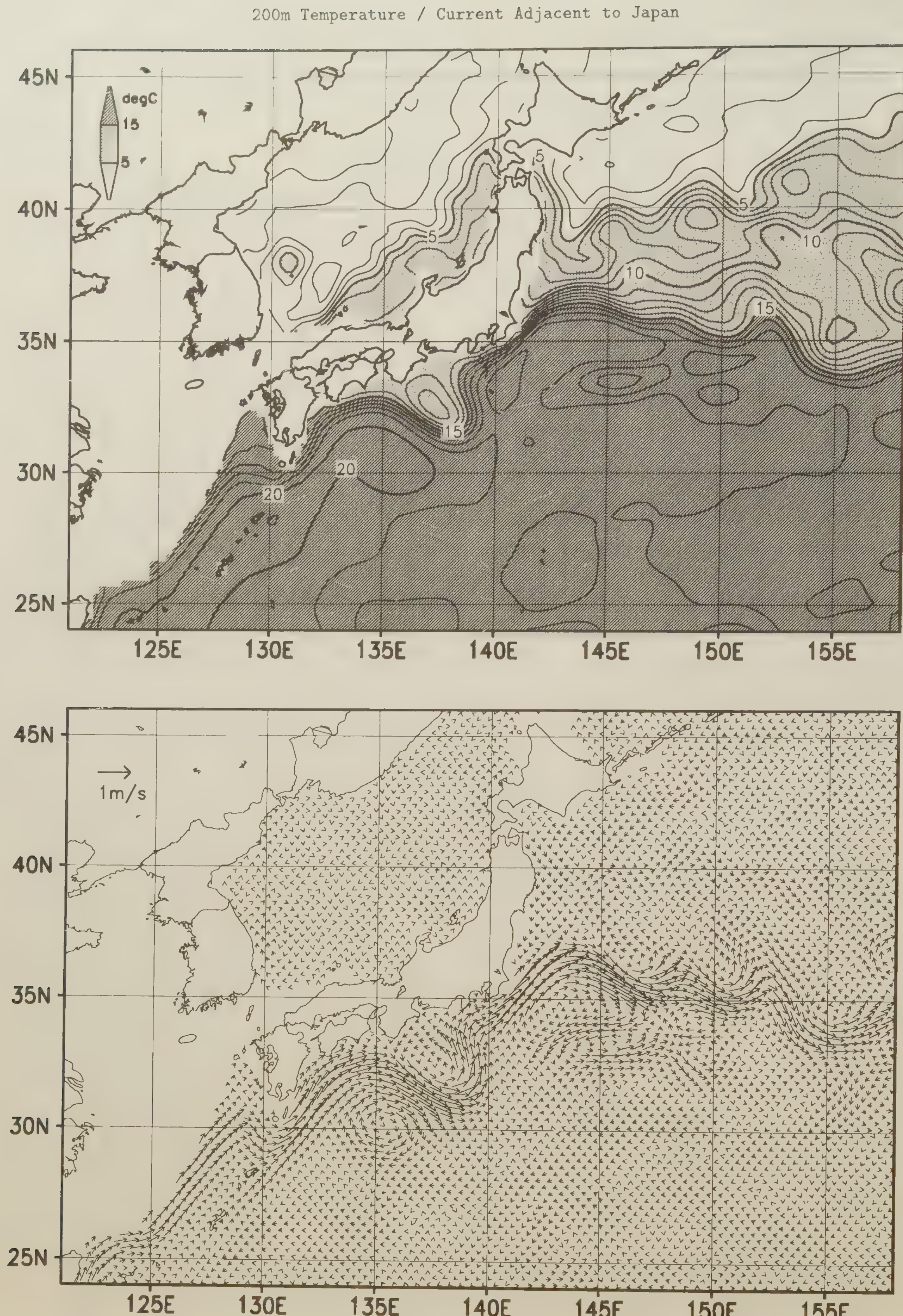
第 5 図　日本近海月平均海面高度分布図 (上) と海面海流図 (下) （2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

Fig. 5　Monthly mean sea surface height (top) and current (bottom) in seas adjacent to Japan for January 2005. Contour interval is 10cm (top). (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



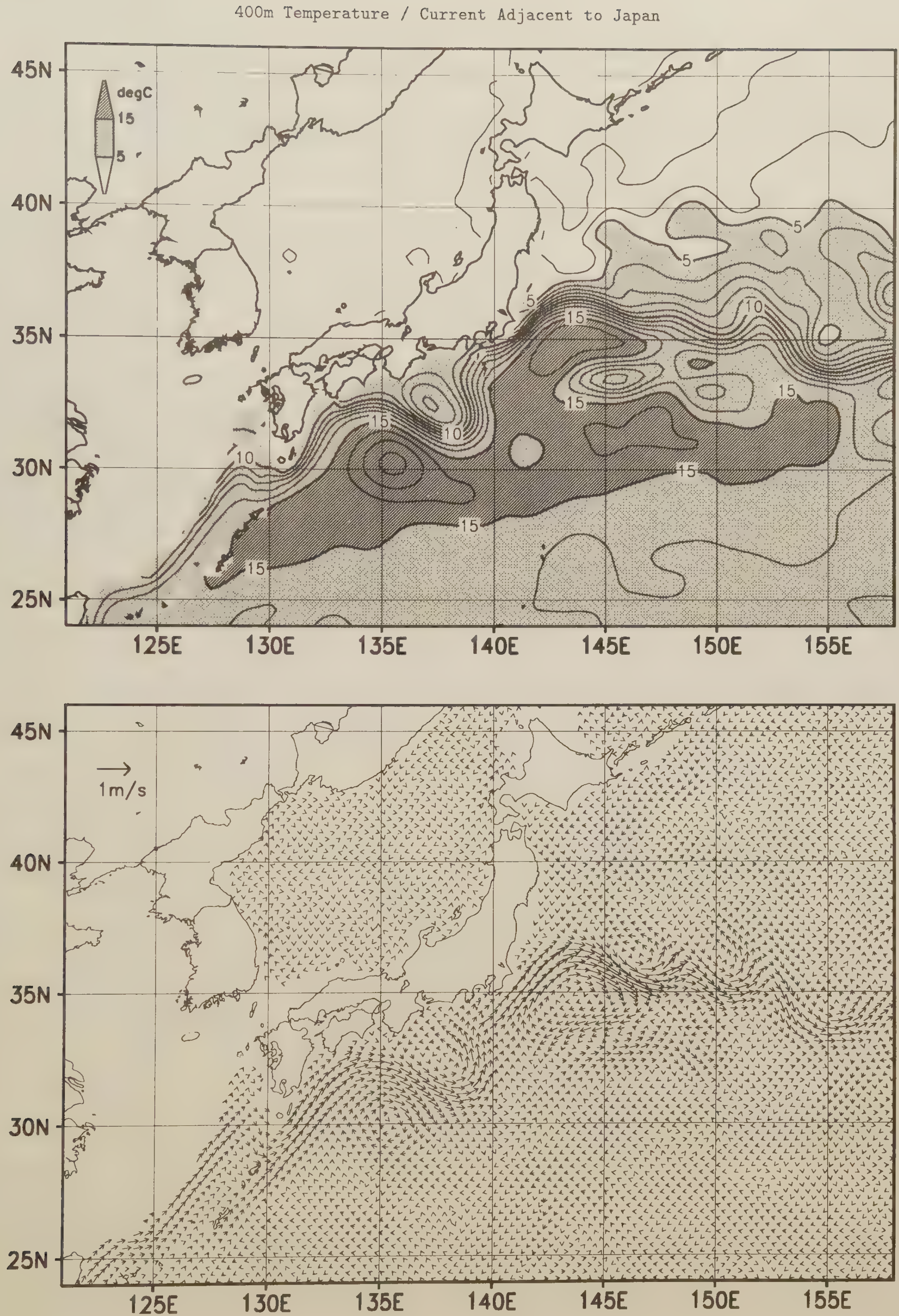
第6図　日本近海月平均表層水温図（上）と表層海流図（下）（深さ 100 m）（2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

Fig. 6　Monthly mean subsurface (100 m) temperature (top) and current (bottom) in seas adjacent to Japan for January 2005. Contour interval is 1 ℃ (top). (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



第７図　日本近海月平均表層水温図（上）と表層海流図（下）（深さ 200 m）（2005 年１月）
（海洋総合解析システムによる）

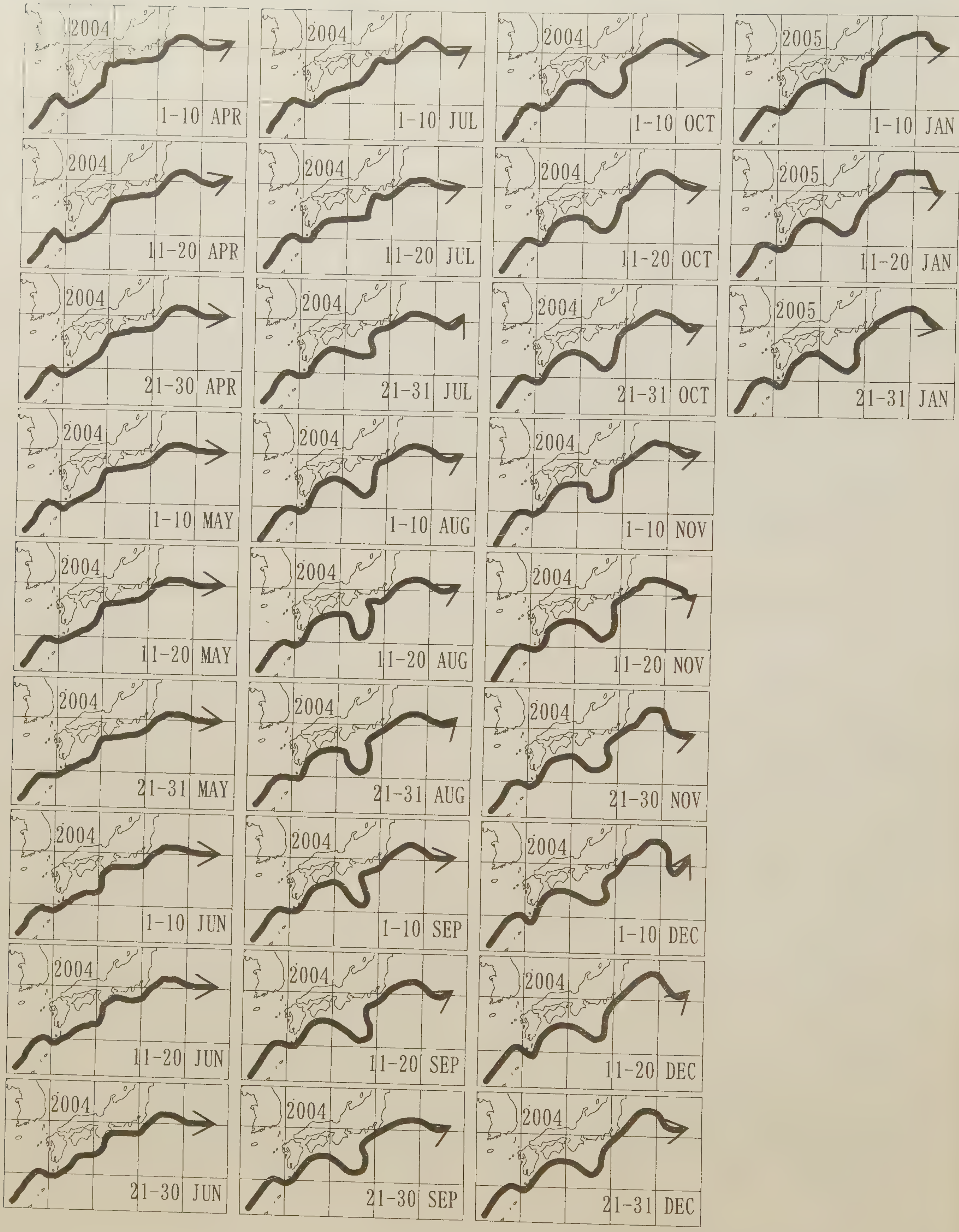
Fig. 7　Monthly mean subsurface (200 m) temperature (top) and current (bottom) in seas adjacent to Japan for January 2005. Contour interval is 1 ℃ (top). (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



第 8 図　日本近海月平均表層水温図（上）と表層海流図（下）（深さ 400 m）（2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

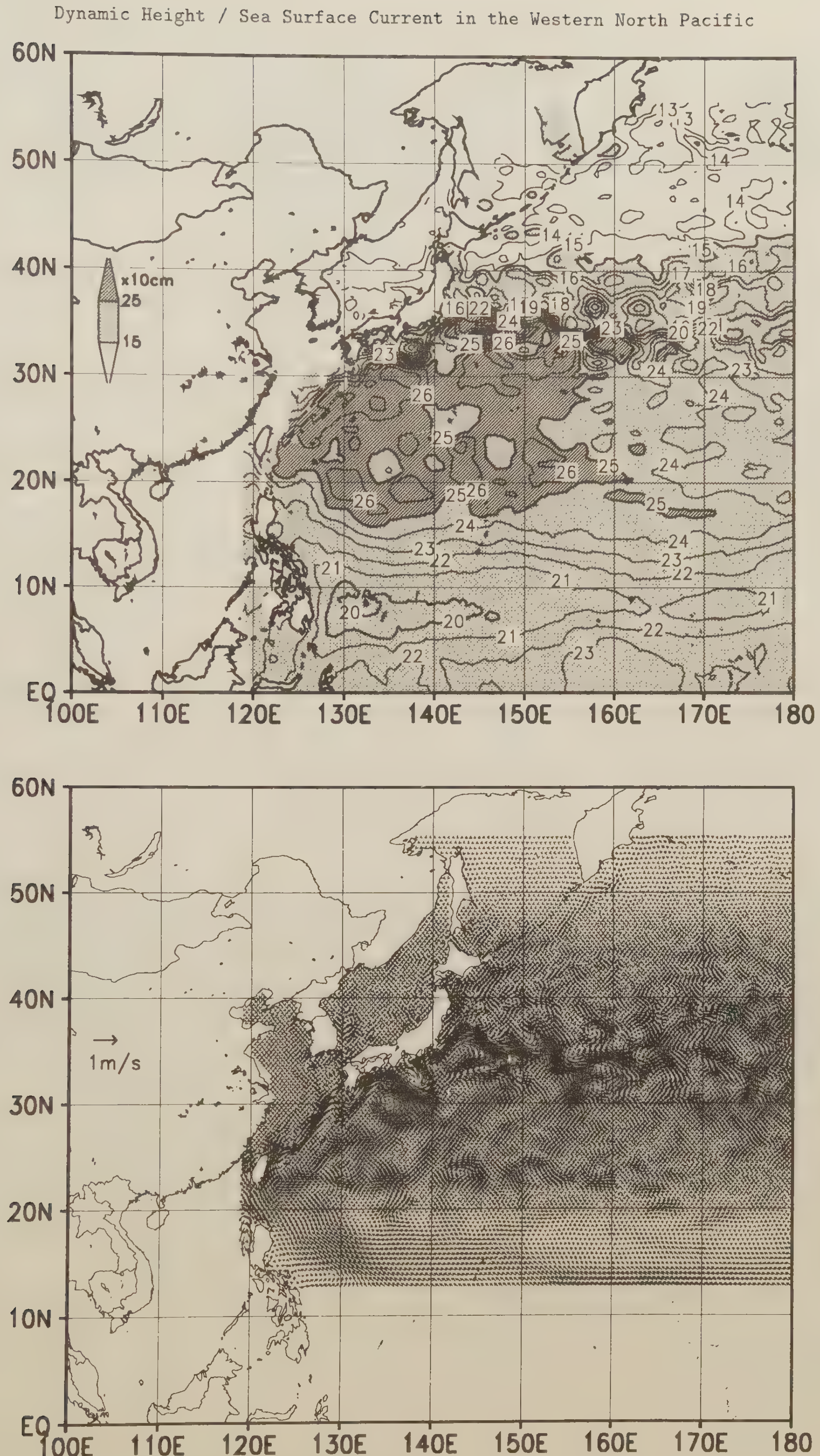
Fig. 8　Monthly mean subsurface (400 m) temperature (top) and current (bottom) in seas adjacent to Japan for January 2005. Contour interval is 1 ℃ (top). (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)

Location of the Kuroshio axis



第9図 旬別黒潮流軸図

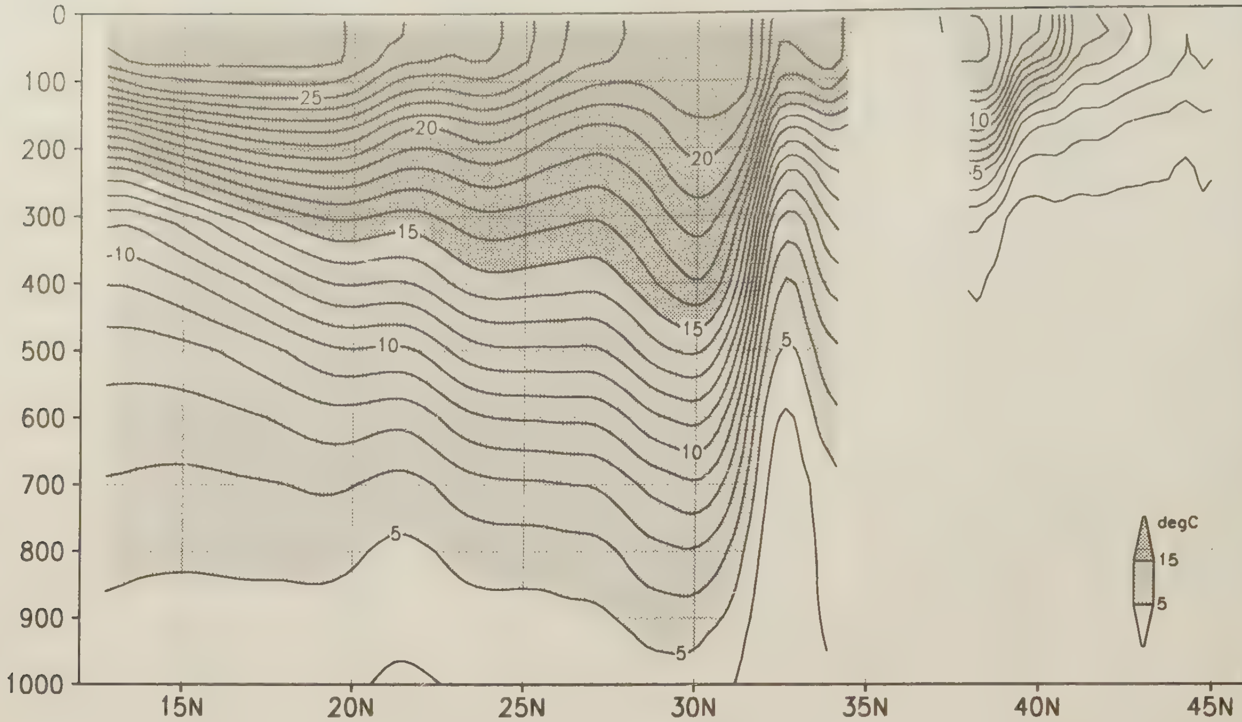
Fig. 9 Location of the Kuroshio axis



第 10 図　北西太平洋月平均海面高度分布図 (上) と海面海流図 (下) （2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

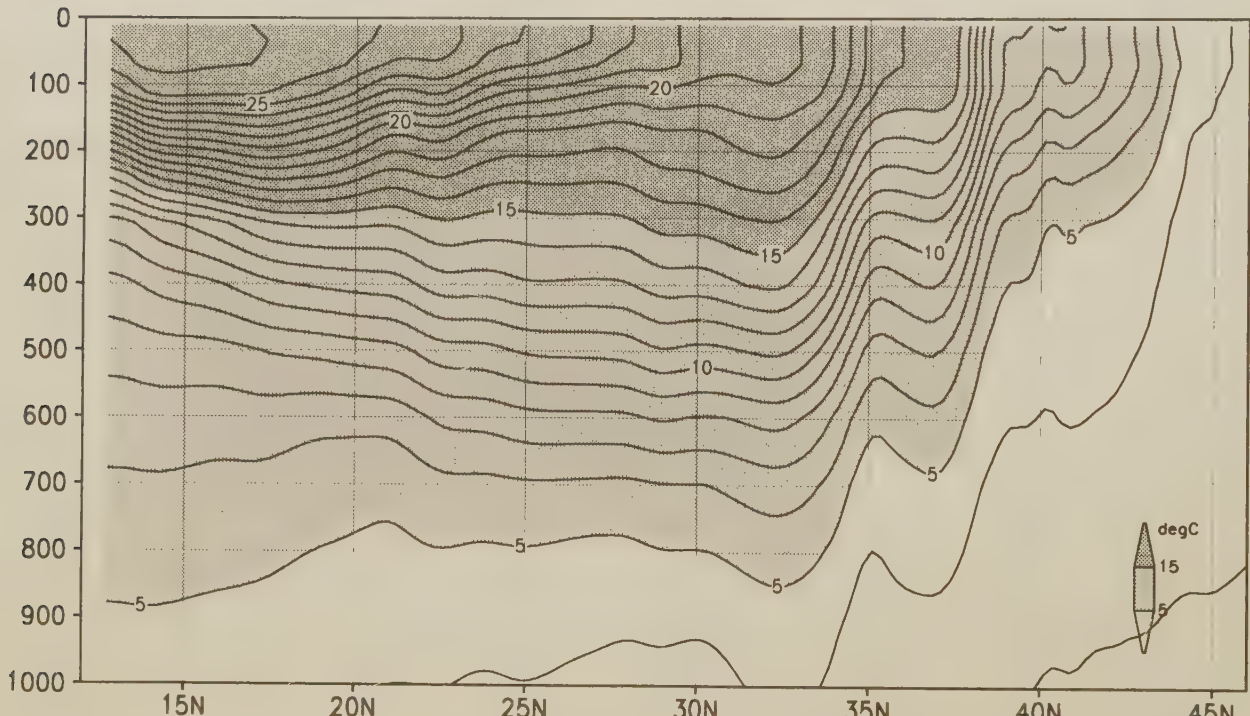
Fig. 10　Monthly mean sea surface height (top) and current (bottom) in the western North Pacific for January 2005. Contour interval is 10cm (top). (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)

Depth-Latitude Sections of Temperature along 137E / 165E



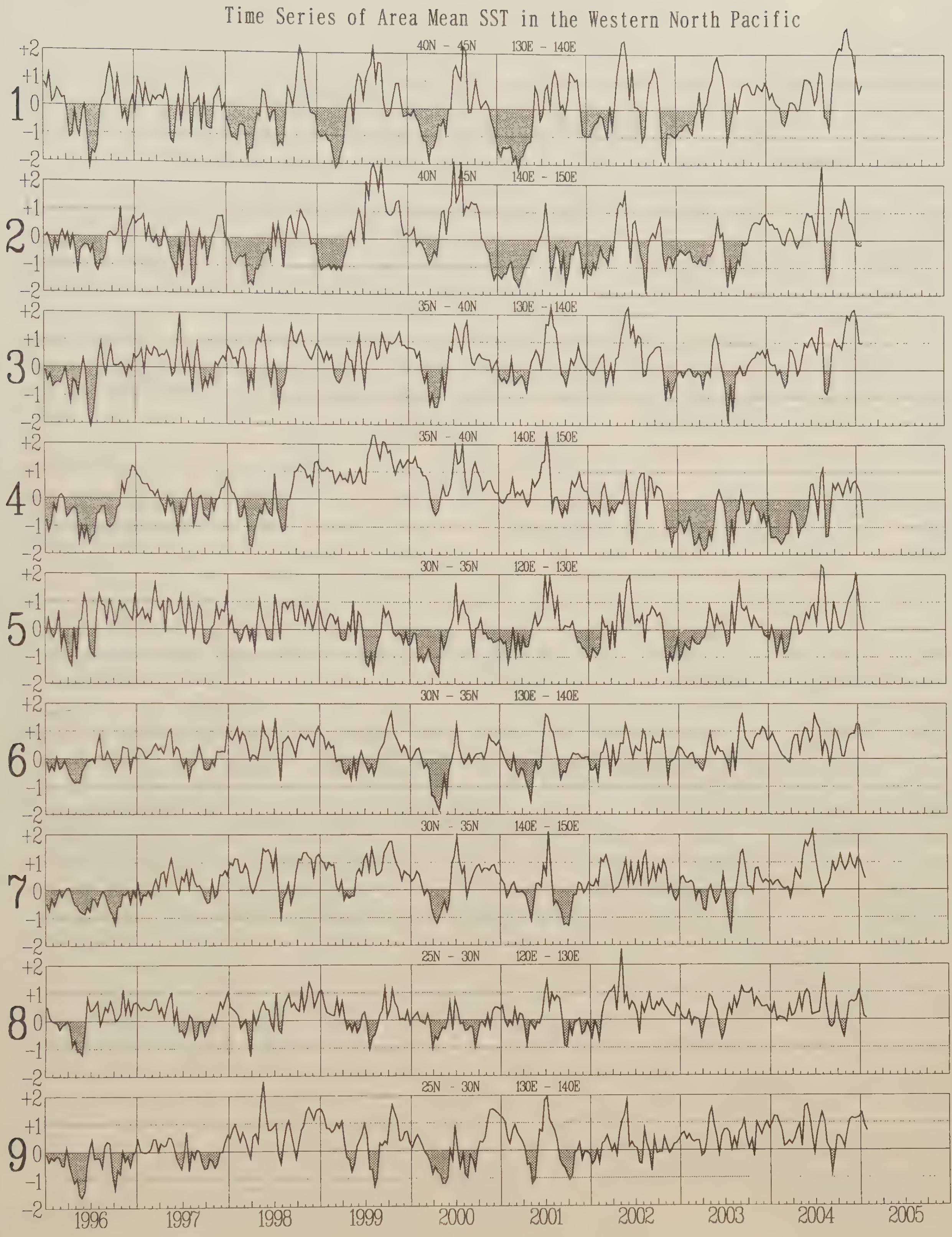
第 11 図　東経 137° 線に沿う月平均表層水温の鉛直断面図 （2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

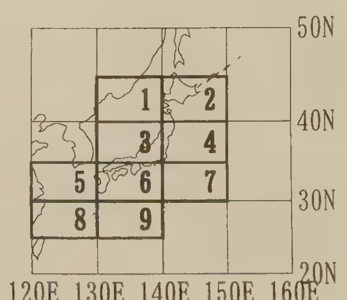
Fig. 11　Vertical cross section of monthly mean temperature along 137 °E for January 2005. Contour interval is 1 °C. (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



第 12 図　東経 165° 線に沿う月平均表層水温の鉛直断面図 （2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

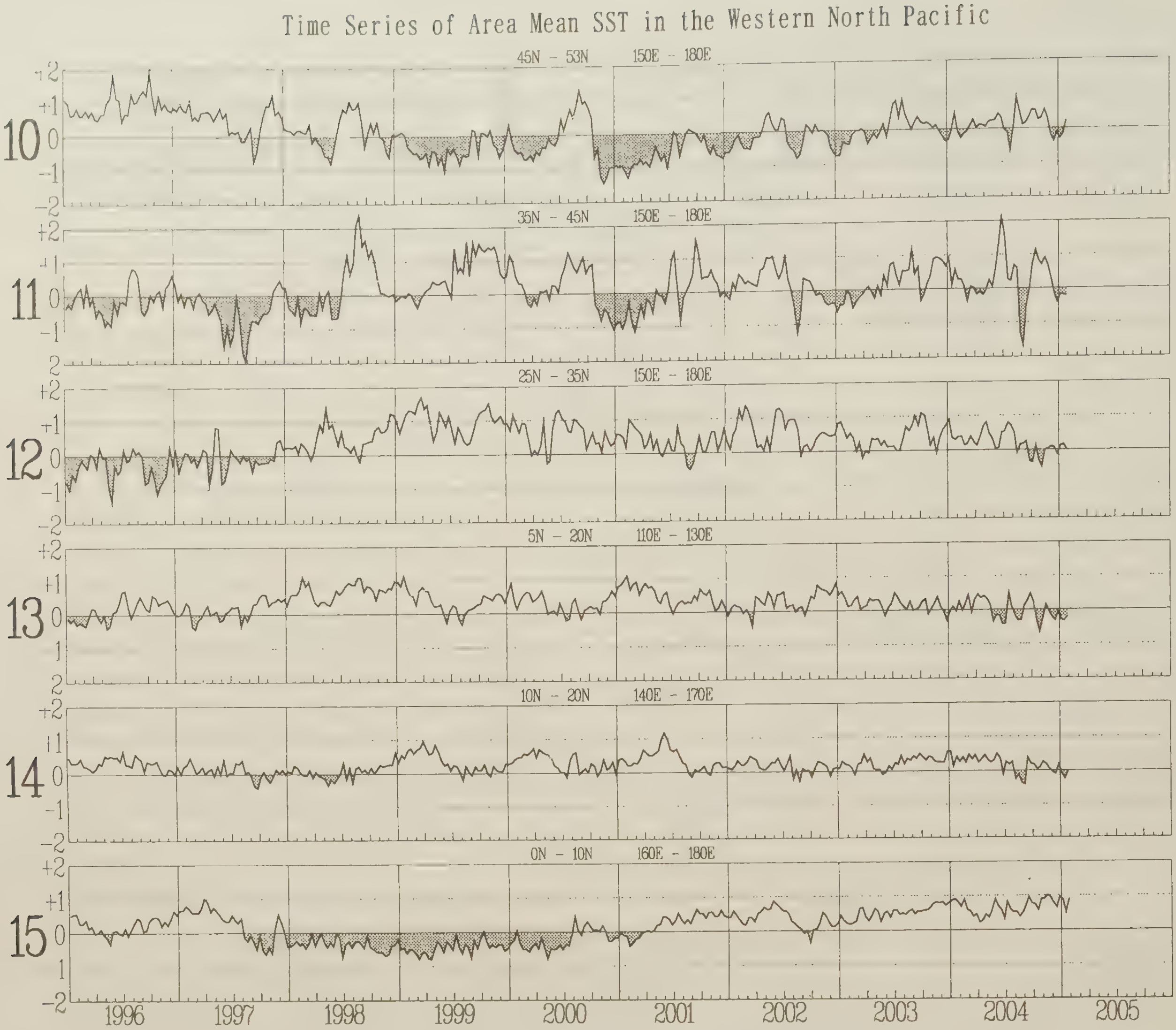
Fig. 12　Vertical cross section of monthly mean temperature along 165 °E for January 2005. Contour interval is 1 °C. (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)





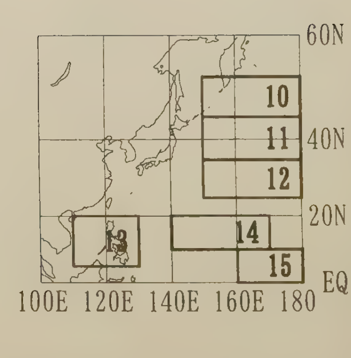
第13図　海域別旬平均海面水温平年偏差時系列図

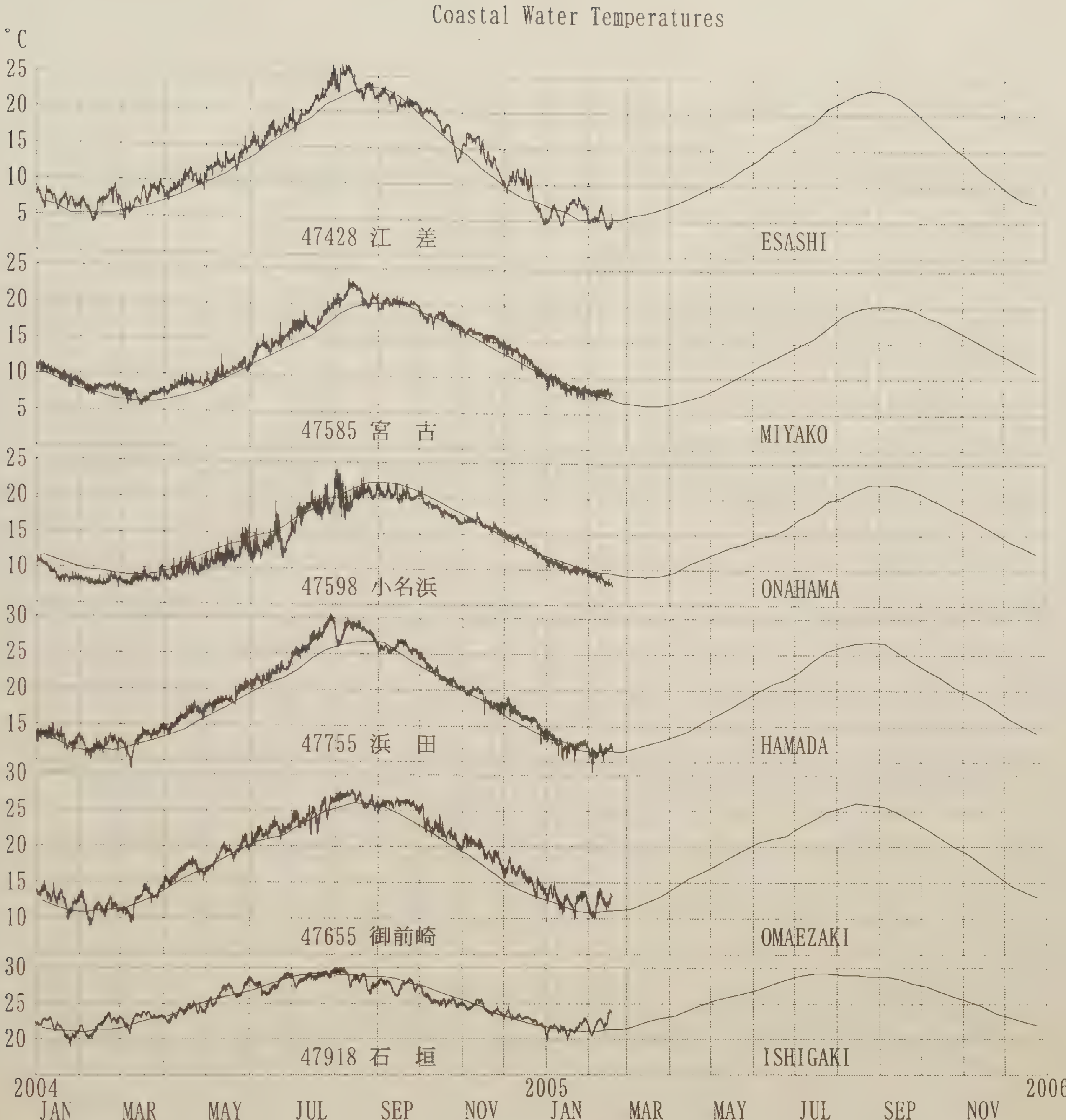
Fig. 13 Time series of the ten-day mean SST anomalies (℃) in the western North Pacific for the areas shown in the right panel. Negative anomalies are shaded. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000).



第13図　海域別旬平均海面水温平年偏差時系列図（つづき）

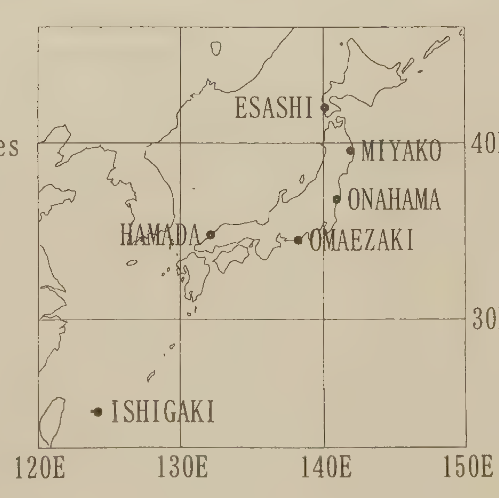
Fig. 13 (continue) Time series of the ten-day mean SST anomalies (°C) in the western North Pacific for the areas shown in the right panel. Negative anomalies are shaded. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000).

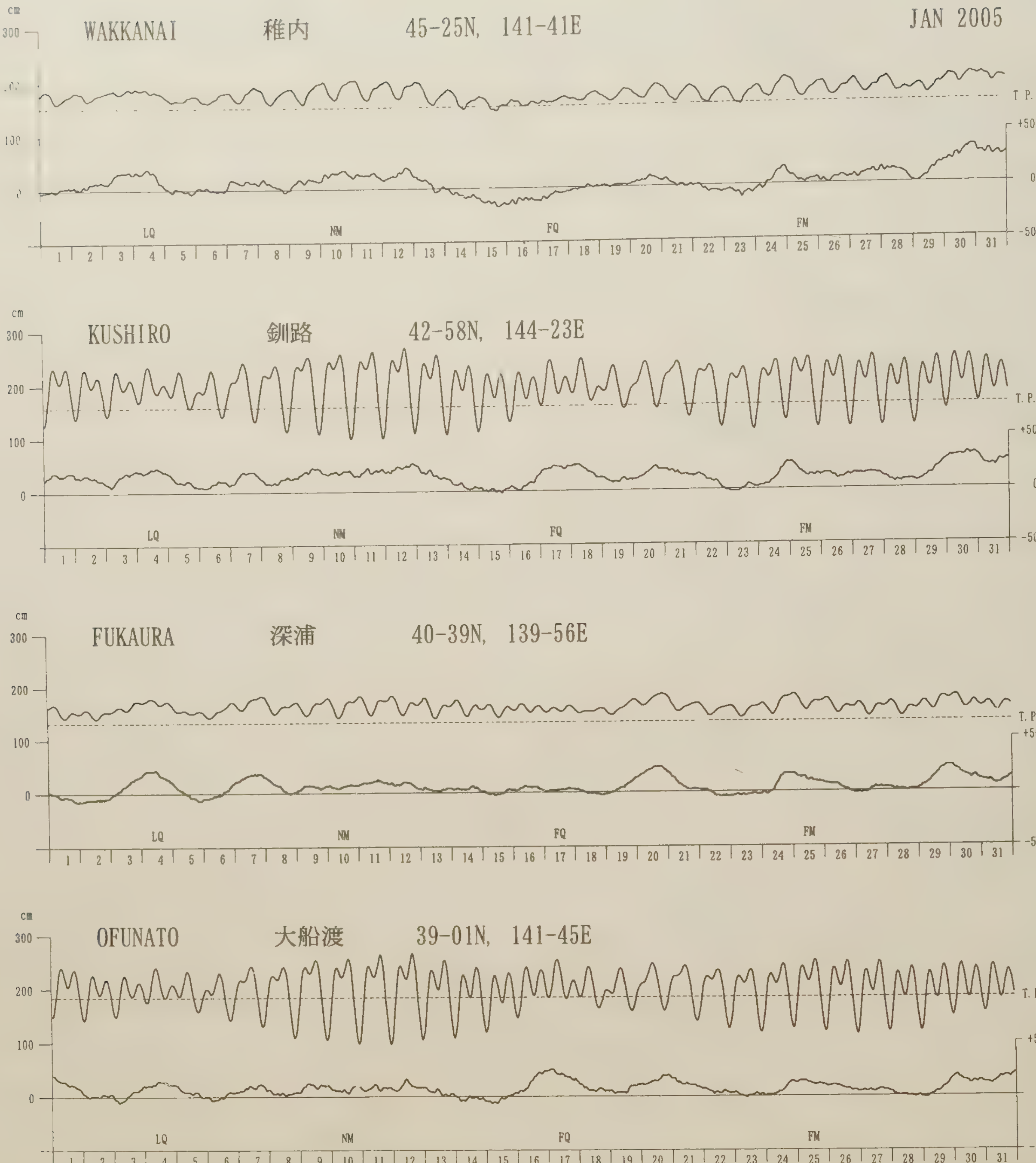




第14図 沿岸水温時系列図

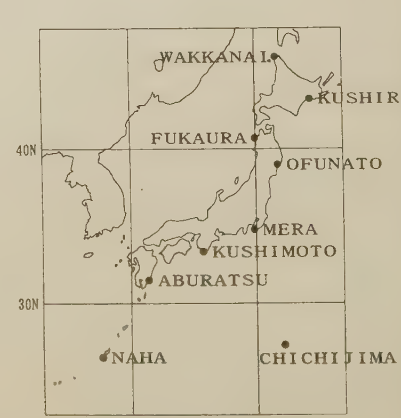
Fig. 14 Time series of hourly coastal water temperatures (°C) measured at 6 coastal stations of the JMA shown in the right panel.
Thin lines show ten-day mean climatology.





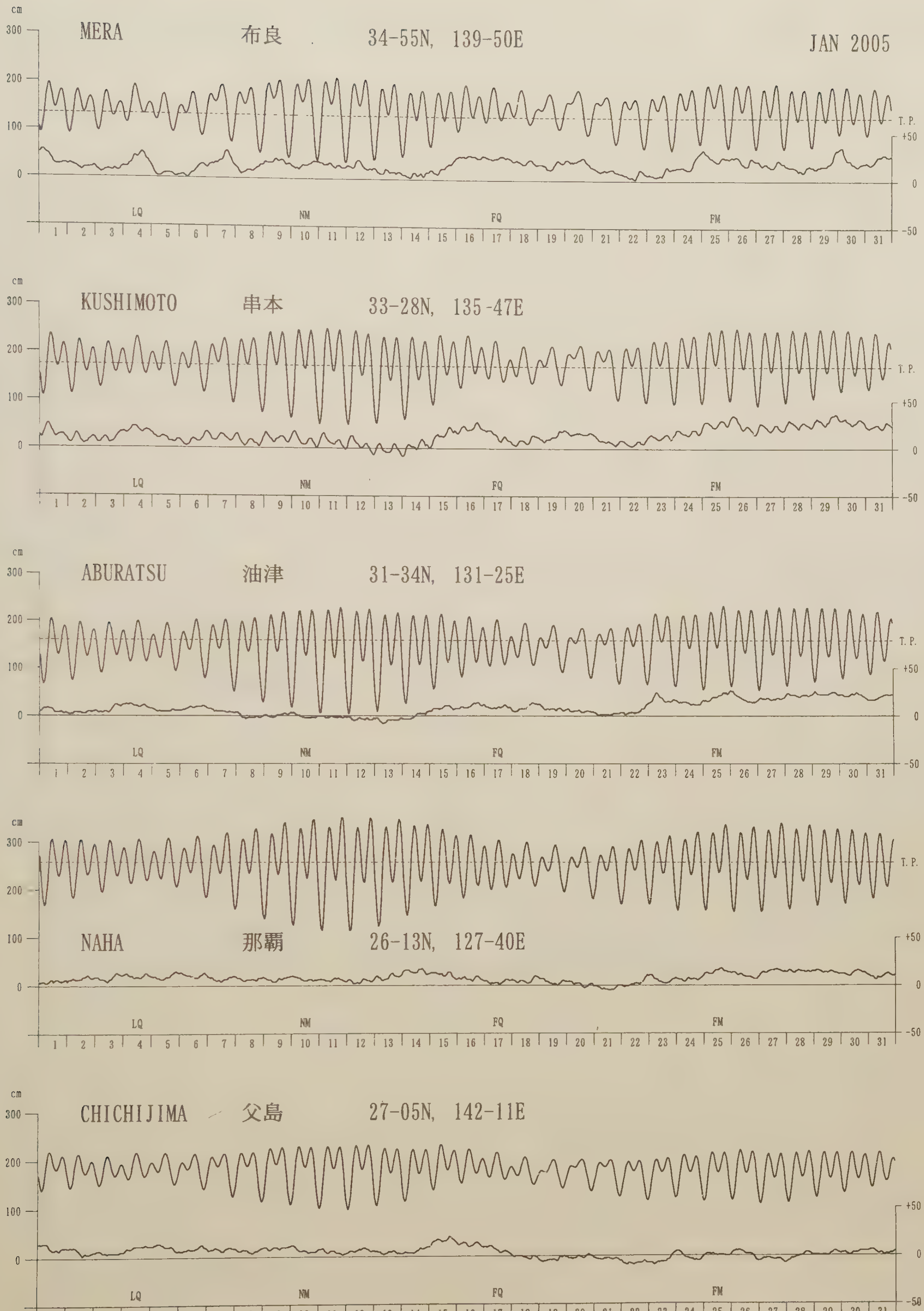
第15図 沿岸潮位時系列図（2005年 1月）

Fig. 15 Time series of hourly sea level observation (upper line) and its anomalies (lower line) at 9 stations of the JMA in the right panel.
Short term variations are removed from raw data.



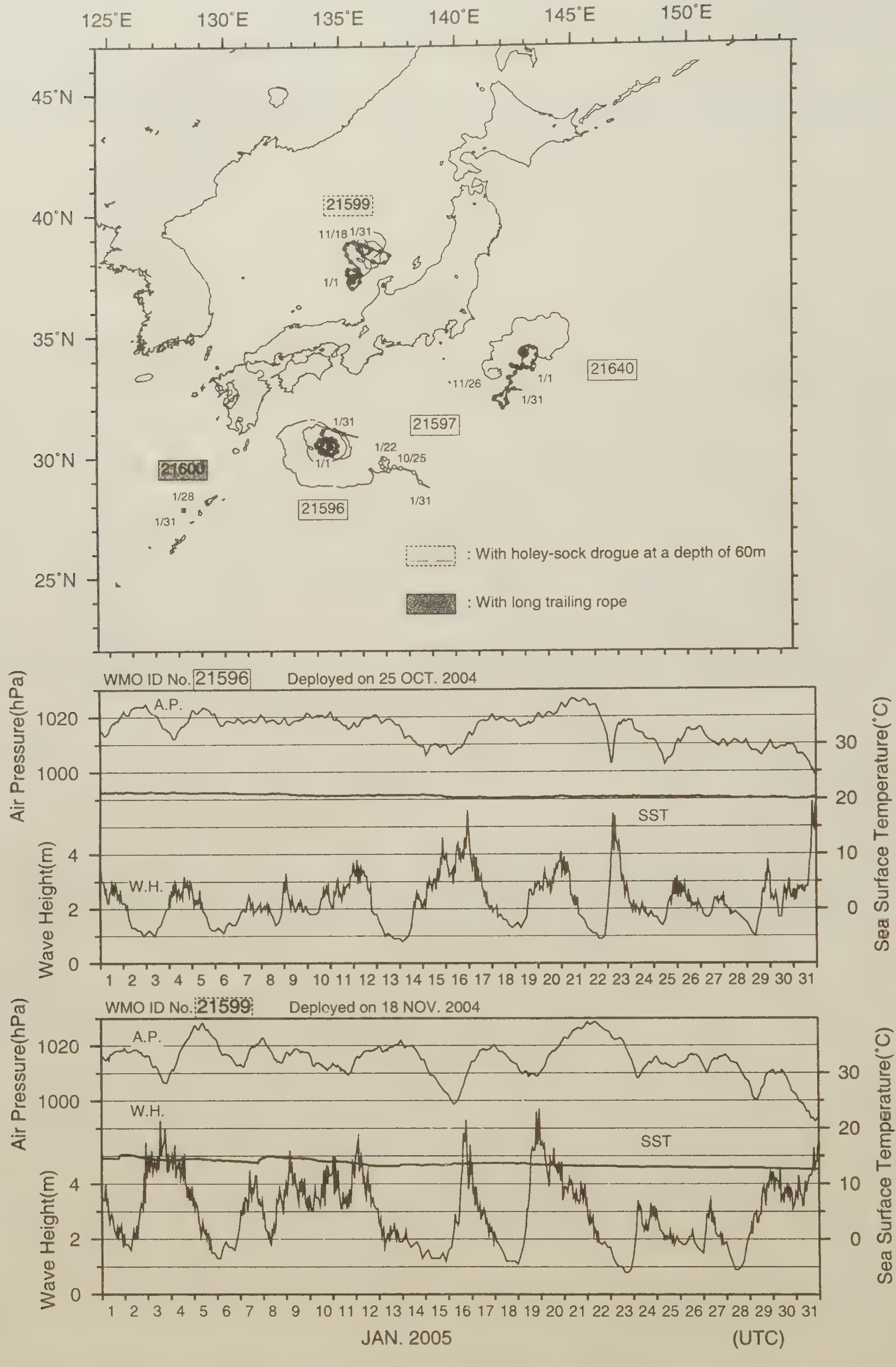
NM: new moon, FQ: first quarter
FM: full moon, LQ: last quarter
T.P.: Mean sea level of Tokyo Bay (Tokyo Peil)

Time series of Sea Level



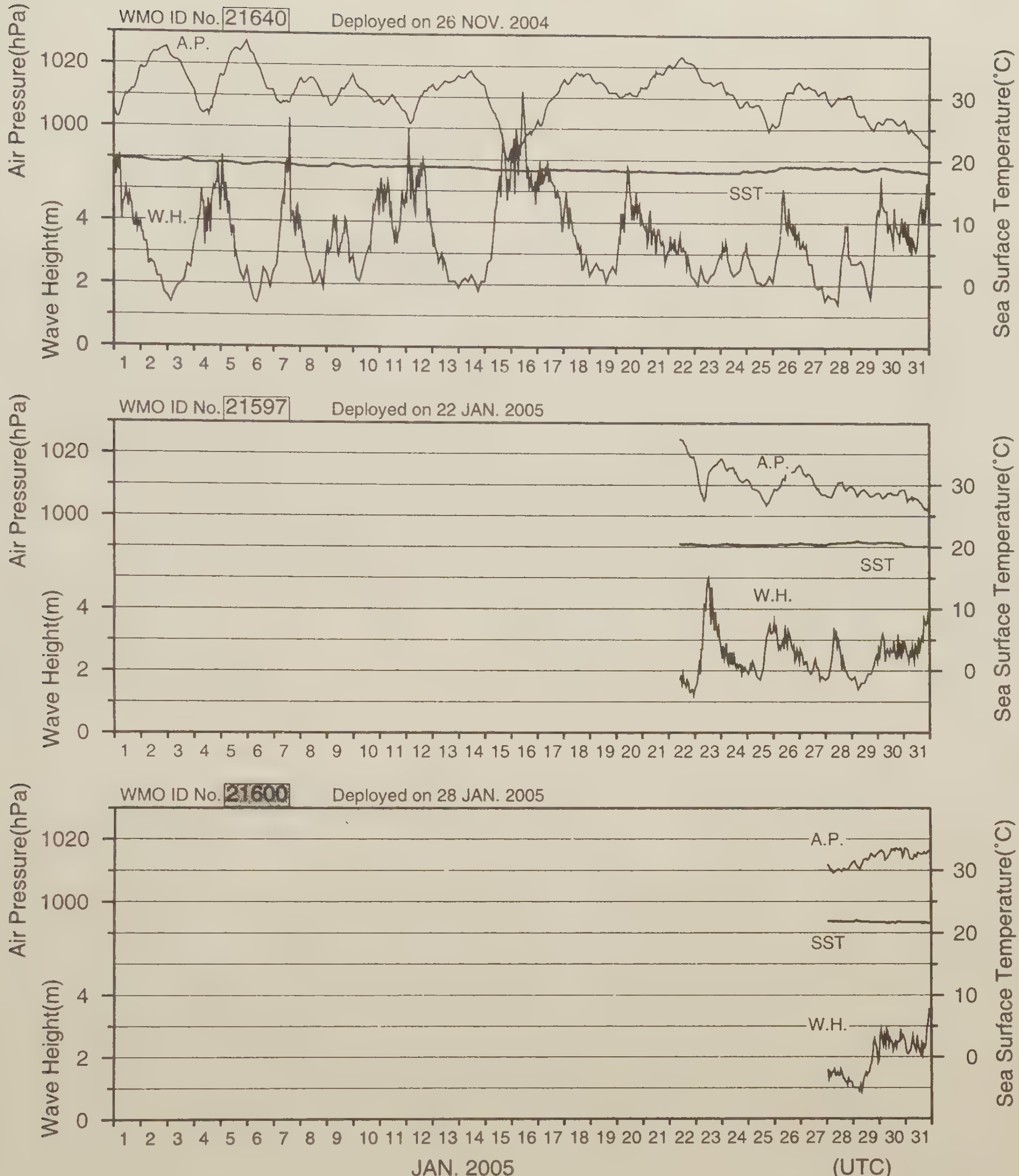
第15図 つづき

Fig. 15 continue



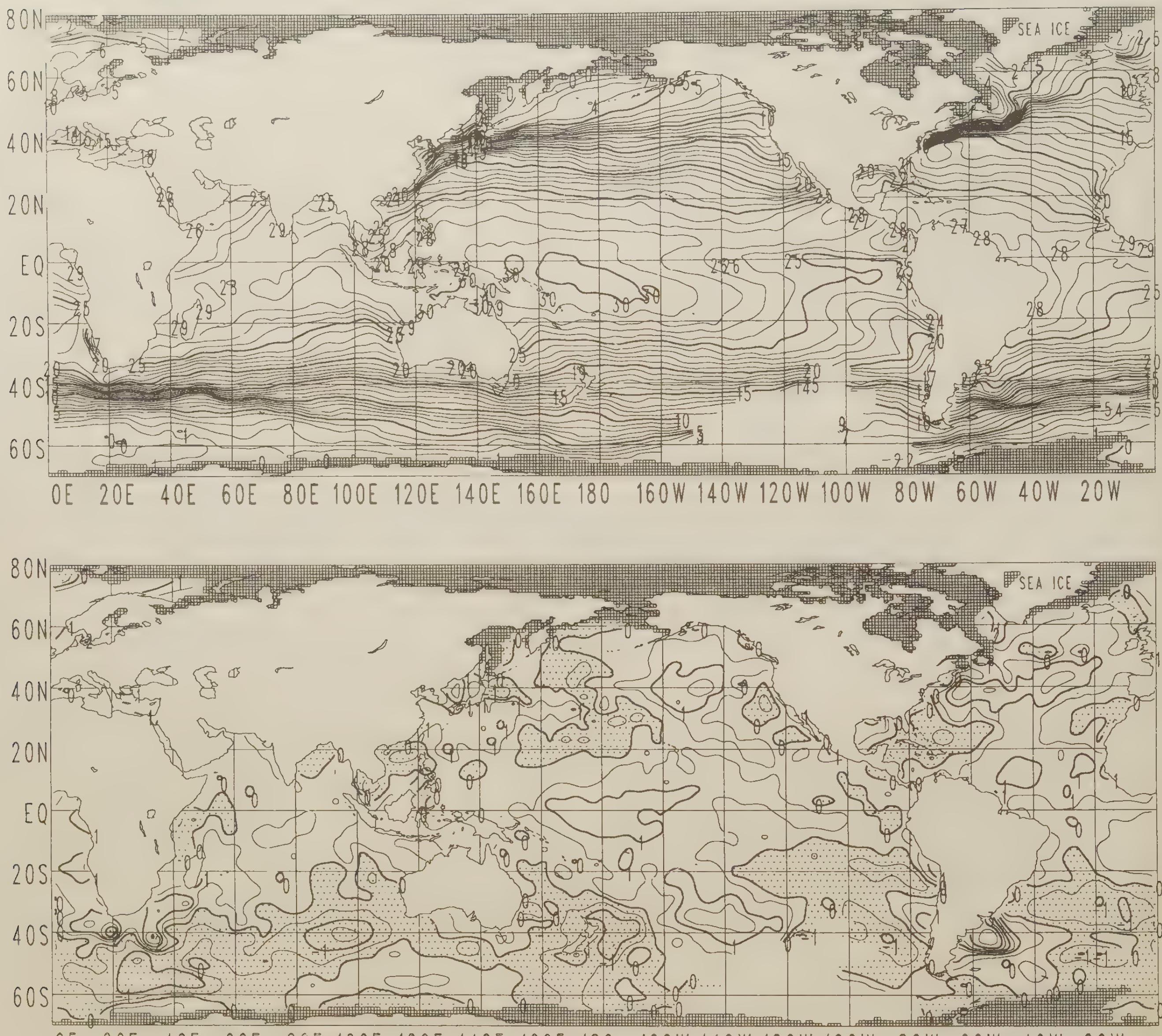
第16図　漂流型海洋気象ブイロボットの軌跡と観測要素の時系列図

Fig.16　Time series of JMA drifting buoy observation.
The upper panel shows paths of the buoys. Circles denote the position at 00h UTC everyday.
The lower panel shows time series of observation data.



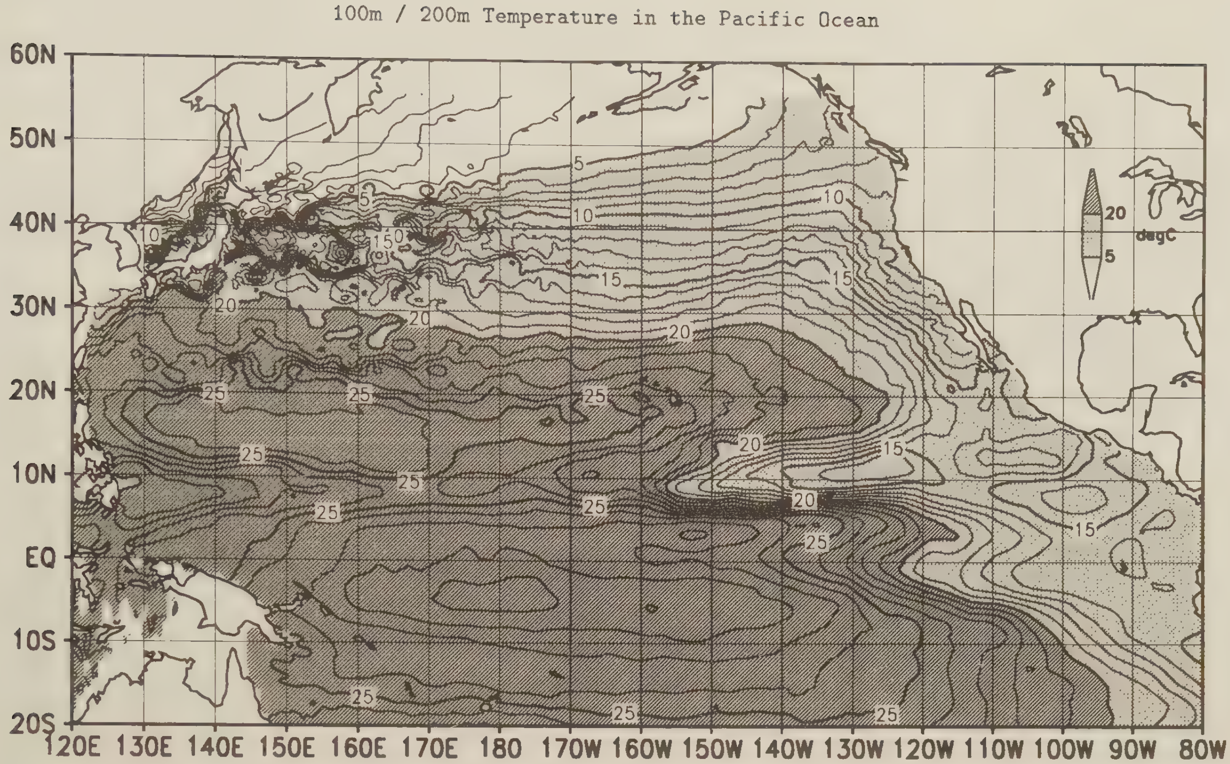
第16図 つづき
Fig.16 continue

SST & Anomalies in the Global Ocean



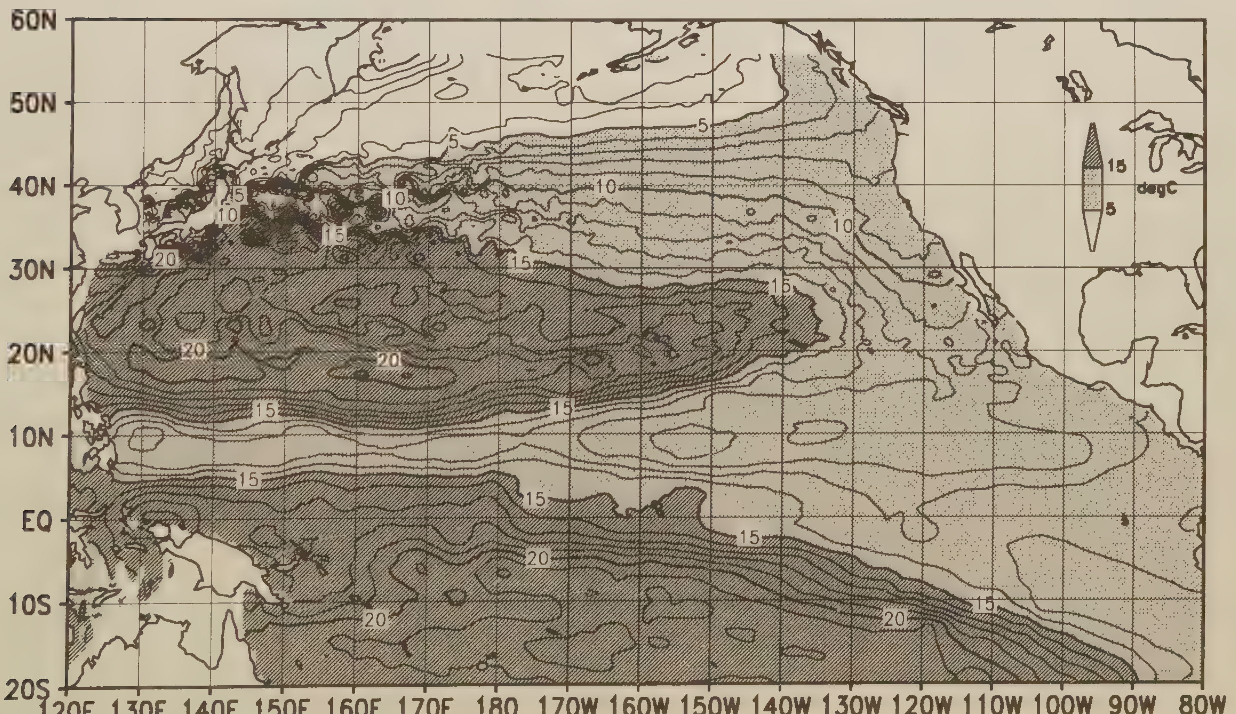
第17図　全球月平均海面水温図（上）及び偏差図（下）（2005年 1月）

Fig. 17 Monthly mean SST over the global ocean (top) and anomalies (bottom) for January 2005. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Contour interval is 1°C (top) and additional anomaly contours of ±0.5°C are shown by thin lines. Negative anomalies are spotted. Maximum coverage of sea ice is shaded. Data sources for sea ice are U. S. National Ice Center (polar regions) and JMA (the Sea of Okhotsk).



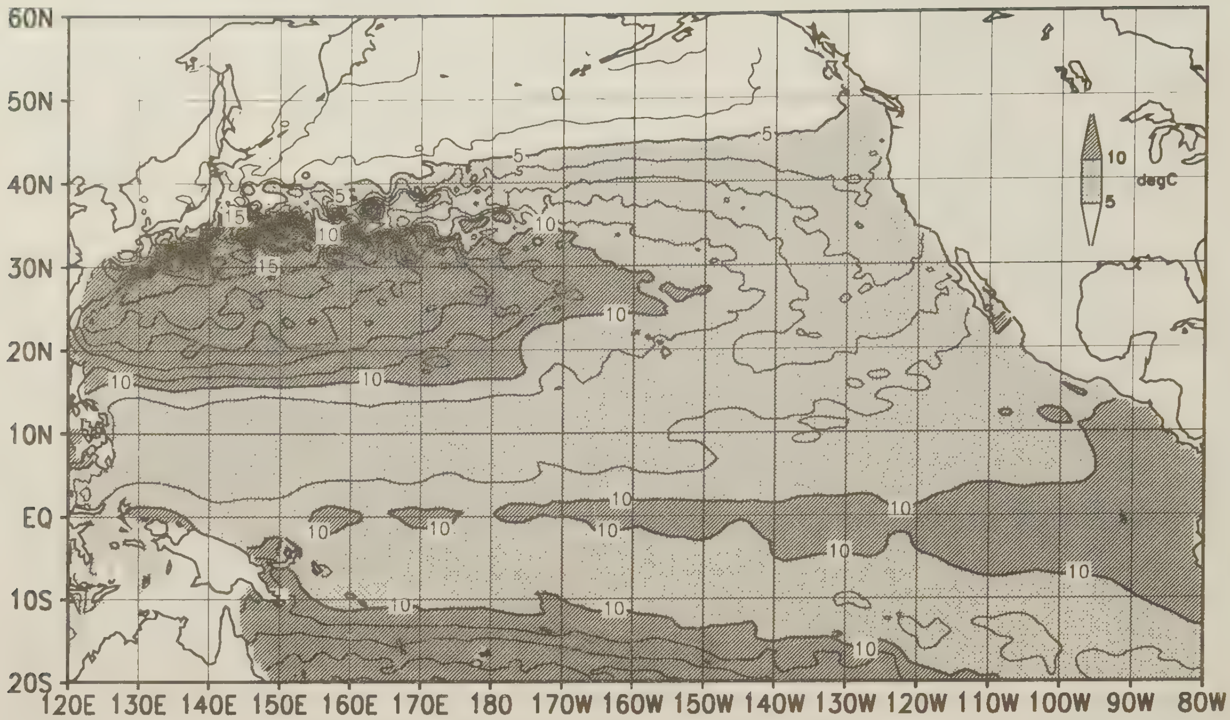
第 18 図　太平洋月平均表層水温図（深さ 100 m）（2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

Fig. 18　Monthly mean subsurface (100 m) temperature in the Pacific Ocean for January 2005. Contour interval is 1 ℃. (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



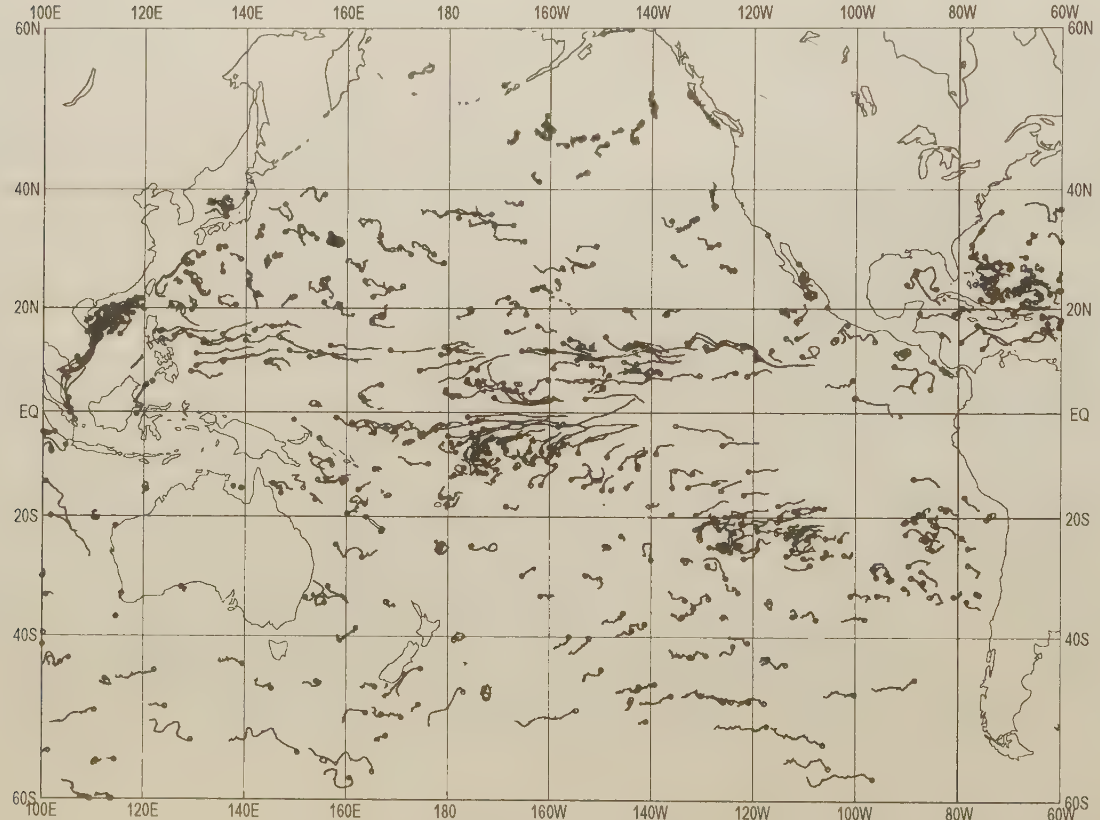
第 19 図　太平洋月平均表層水温図（深さ 200 m）（2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

Fig. 19　Monthly mean subsurface (200 m) temperature in the Pacific Ocean for January 2005. Contour interval is 1 ℃. (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



第 20 図　太平洋月平均表層水温図（深さ 400 m）（2005 年 1 月）
（海洋総合解析システムによる）

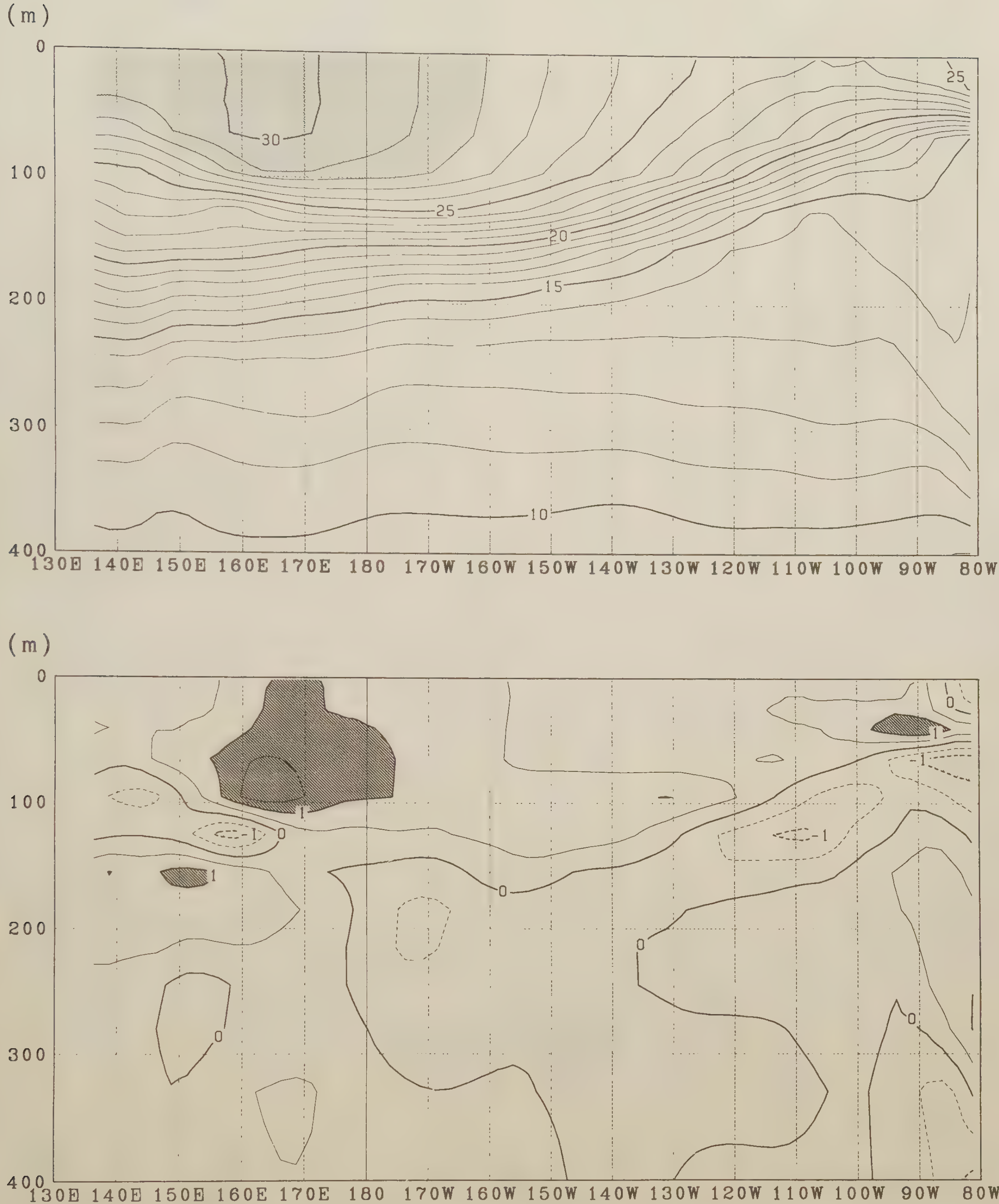
Fig. 20　Monthly mean subsurface (400 m) temperature in the Pacific Ocean for January 2005. Contour interval is 1 ℃. (calculated by the Ocean Comprehensive Analysis System)



第 21 図　太平洋ブイ流跡図（2005 年 1 月）

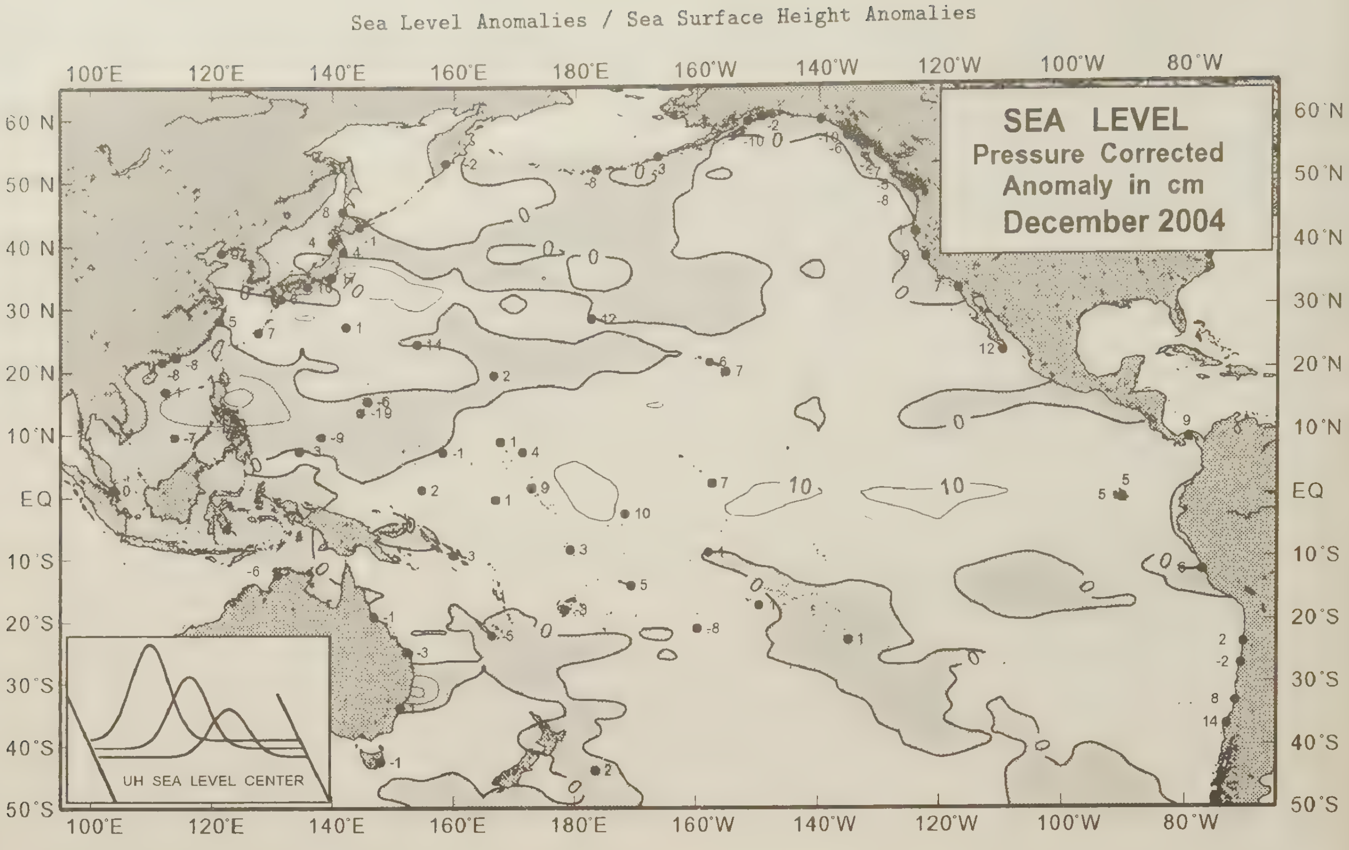
Fig. 21　Trajectories of drifting buoys in the Pacific Ocean during January 2005. Each track is for one buoy. Small circles represent the last positions for the month.

Depth-Longitude Sections of Equatorial Temperature & Anomalies



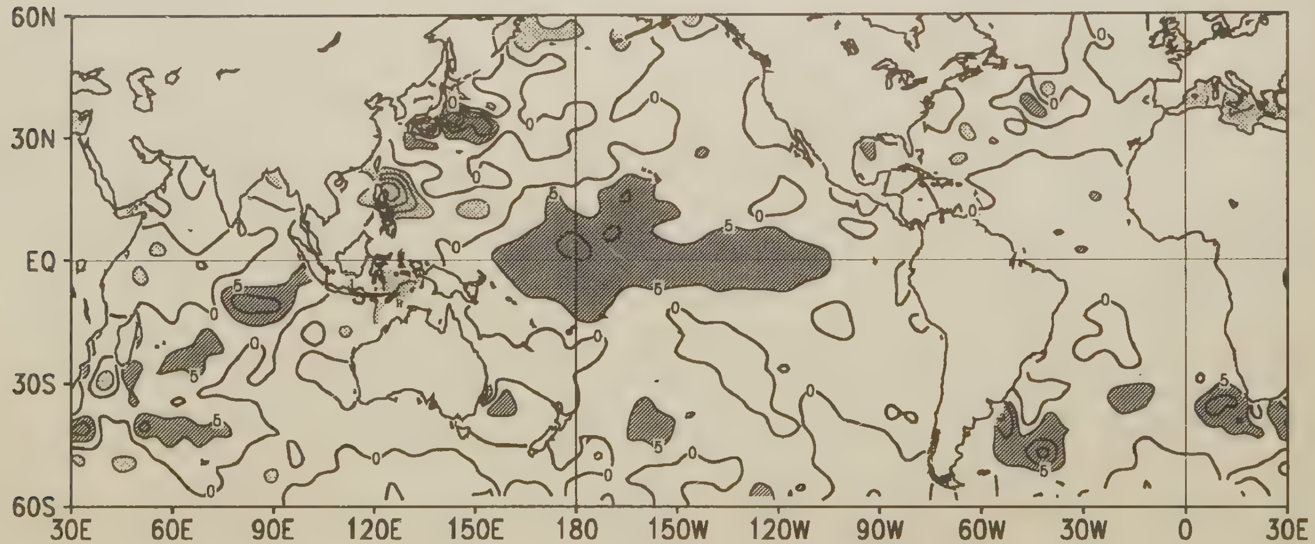
第22図　太平洋赤道に沿う表層水温（上）及び偏差（下）の深度－経度断面図（2005年 1月）

Fig. 22 Depth-longitude sections of temperature (top) and anomalies (bottom) along the equator in the Pacific Ocean for January 2005. Data are derived from the Ocean Data Assimilation System of JMA. Contour interval is 1°C (top) and 0.5°C (bottom). Values greater than 28°C in the top panel are shaded. In the bottom panel, values greater than 1°C are shaded and values less than -1°C are spotted. Anomalies are computed from 1987-2003 base period means.



第 23 図　太平洋月平均海面水位偏差図（2004 年 12 月）

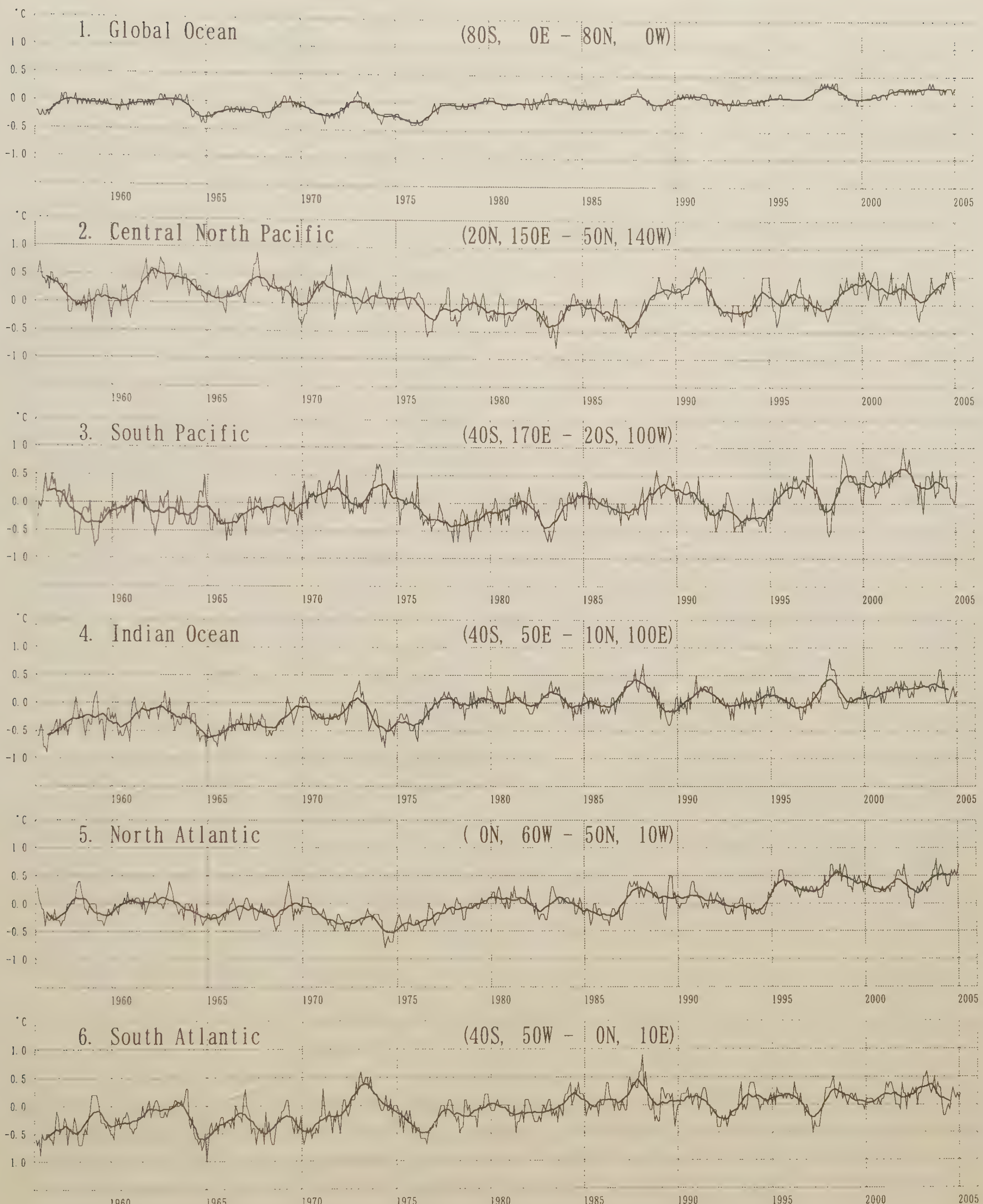
Fig. 23　Monthly sea level anomalies for December 2004 obtained from mean sea level (1993-2001) adjusted for atmospheric pressure. This figure is prepared by the SOC of ISLP-PAC, Department of Oceanography, University of Hawaii.



第 24 図　全球月平均海面高度偏差図（2004 年 12 月）

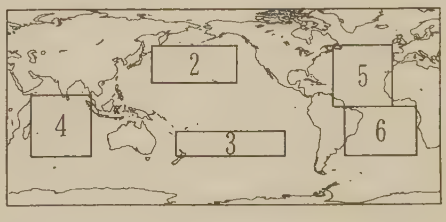
Fig. 24　Monthly sea surface height anomalies in the global ocean derived from the altimeter data of Jason-1 for December 2004. Contour interval is 5 cm. Positive anomalies exceeding +5 cm are shaded and negative anomalies exceeding -5 cm are spotted. Anomalies are computed from 1993-1998 base period means.

Long-term Variation of Monthly Mean SST Anomalies

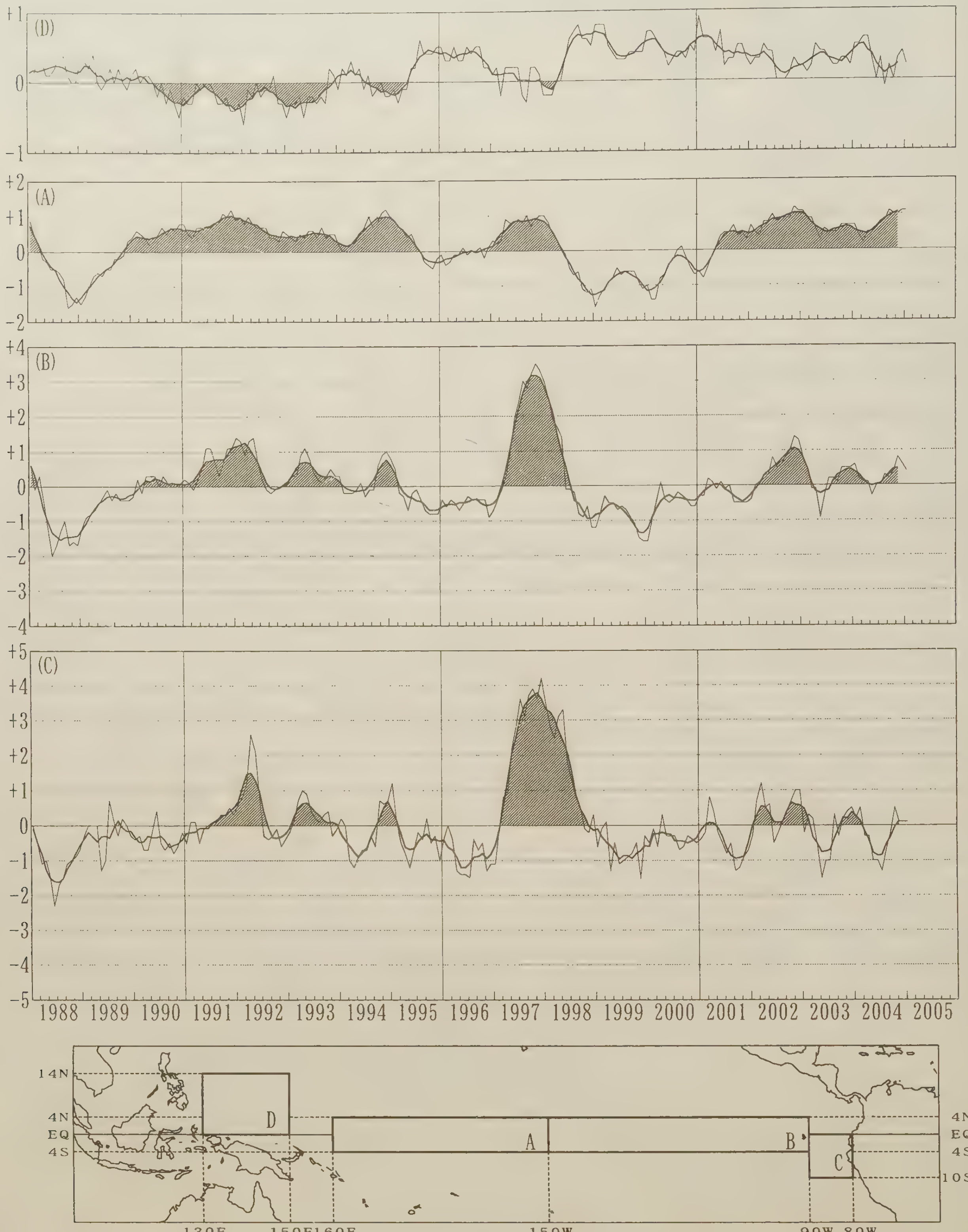


第25図 海域平均海面水温偏差の長期変動

Fig. 25 Long-term variations of monthly mean sea surface temperature anomalies (°C) for the areas shown in the right panel. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000). Thin lines show the monthly mean and thick lines their 13-month running means.



Time Series of Tropical Pacific SST Anomalies



第26図　太平洋熱帯域の海面水温偏差時系列図

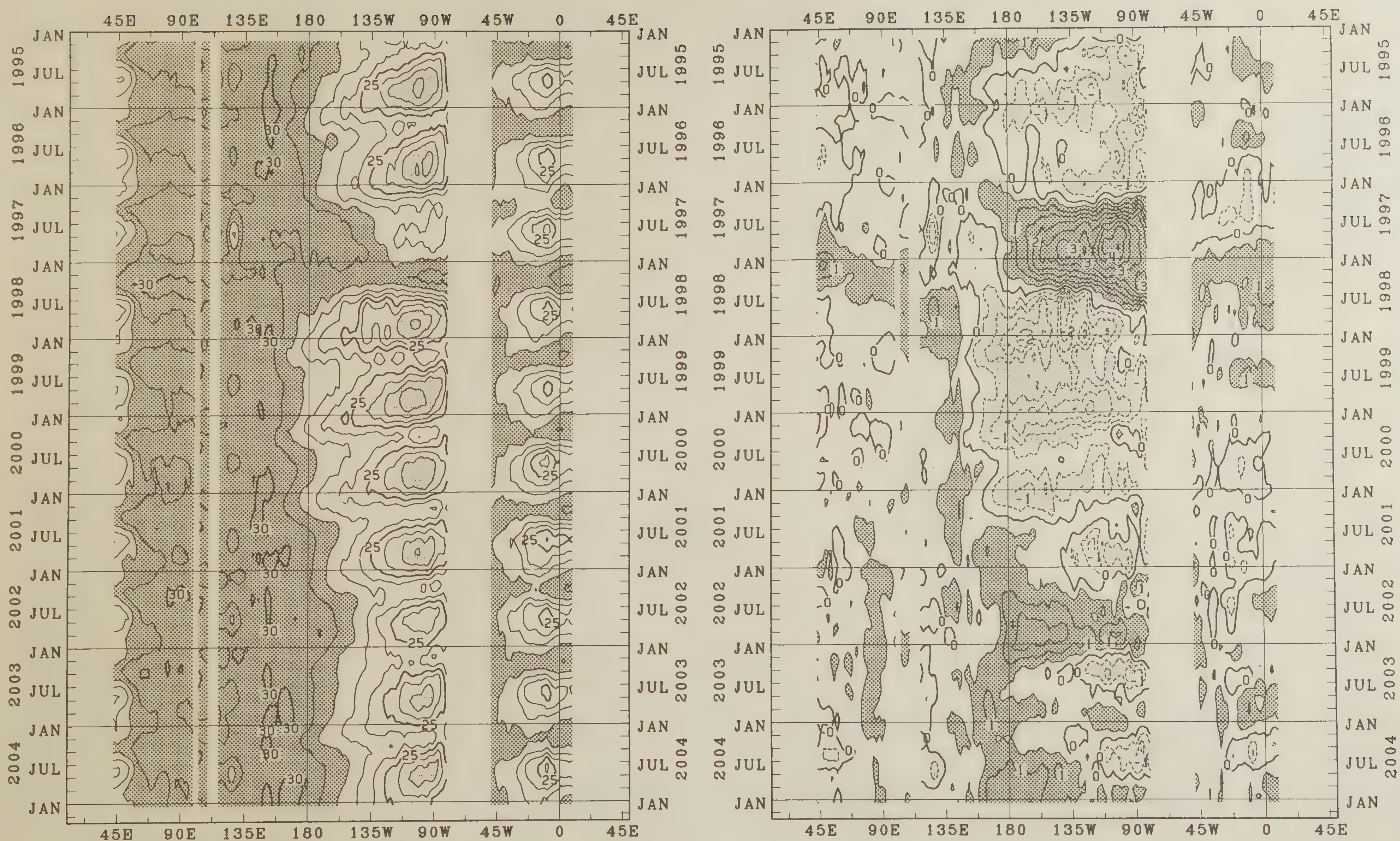
Fig. 26 Time series of monthly mean SST anomalies (°C) in the tropical Pacific Ocean for the areas indicated at the bottom panel. Thin lines show the monthly means and thick lines their 5-month running means. Positive anomalies (A, B, C) and negative anomalies (D) are shaded. Anomalies are computed from the JMA climatology (1971-2000).

Monitoring Indices in the Tropical Pacific

MONTH YEAR	SEA SURFACE TEMPERATURE AND ANOMALY (°C)								SOI	SEA LEVEL PRESSURE ANOMALY (hPa)	
	REGION D 14N-EQ 130E-150E		REGION A 4N-4S 160E-150W		REGION B 4N-4S 150W-90W		REGION C EQ-10S 90W-80W		SOI	TAHITI 17-33S 149-37W	DARWIN 12-24S 130-52E
JAN 03	28.7	0.2	29.1	1.1	26.2	0.8	24.3	-0.2	-0.1	-0.1	0.2
FEB 03	28.4	0.1	28.9	0.9	26.8	0.5	26.3	0.3	-0.5	-1.5	-0.2
MAR 03	28.7	0.2	29.0	0.9	27.0	-0.1	26.5	0.2	-0.3	-0.2	0.5
APR 03	29.3	0.5	28.8	0.6	27.1	-0.1	24.9	-0.5	-0.1	0.5	0.8
MAY 03	29.7	0.4	28.9	0.3	26.0	-0.9	22.8	-1.5	-0.6	-0.7	0.2
JUN 03	29.8	0.4	29.1	0.6	25.9	-0.3	21.9	-1.0	-0.9	-0.9	0.4
JUL 03	29.6	0.3	29.0	0.5	25.6	0.2	20.9	-1.0	0.2	0.7	0.3
AUG 03	29.4	0.2	28.9	0.5	24.9	0.2	21.2	0.3	0.0	-0.2	-0.1
SEP 03	29.5	0.2	28.9	0.5	24.8	0.1	20.2	-0.3	-0.1	-0.3	0.0
OCT 03	29.7	0.3	29.1	0.7	25.2	0.5	21.1	0.2	-0.1	-0.5	-0.4
NOV 03	29.6	0.3	29.1	0.7	25.2	0.5	22.2	0.4	-0.2	0.0	0.4
DEC 03	29.2	0.2	28.9	0.7	25.5	0.5	23.4	0.5	1.1	0.9	-1.1
JAN 04	29.0	0.5	28.7	0.7	26.0	0.6	24.7	0.2	-1.0	-1.5	0.9
FEB 04	28.8	0.5	28.4	0.4	26.5	0.2	26.5	0.5	0.8	1.4	-0.6
MAR 04	29.1	0.6	28.3	0.2	27.2	0.1	26.0	-0.3	0.1	-0.7	-1.3
APR 04	29.4	0.6	28.7	0.5	27.3	0.1	25.1	-0.3	-1.4	-1.0	1.3
MAY 04	29.6	0.3	29.1	0.5	26.6	-0.3	23.3	-1.0	1.2	0.9	-0.7
JUN 04	29.4	0.0	29.1	0.6	26.2	0.0	21.9	-1.0	-1.1	0.1	1.7
JUL 04	29.6	0.3	29.3	0.8	25.4	0.0	20.6	-1.3	-0.6	-0.2	0.9
AUG 04	29.1	-0.1	29.2	0.8	25.0	0.3	20.2	-0.7	-0.5	-0.5	0.3
SEP 04	29.5	0.2	29.5	1.1	24.9	0.2	20.3	-0.2	-0.2	0.4	0.9
OCT 04	29.4	0.0	29.4	1.0	25.1	0.4	21.4	0.5	-0.2	0.0	0.3
NOV 04	29.6	0.3	29.4	1.0	25.5	0.8	21.9	0.1	-0.7	-0.8	0.5
DEC 04	29.4	0.4	29.3	1.1	25.6	0.6	23.0	0.1	-0.7	-1.4	-0.1
JAN 05	28.7	0.2	29.1	1.1	25.8	0.4	24.6	0.1	0.3	0.3	-0.3

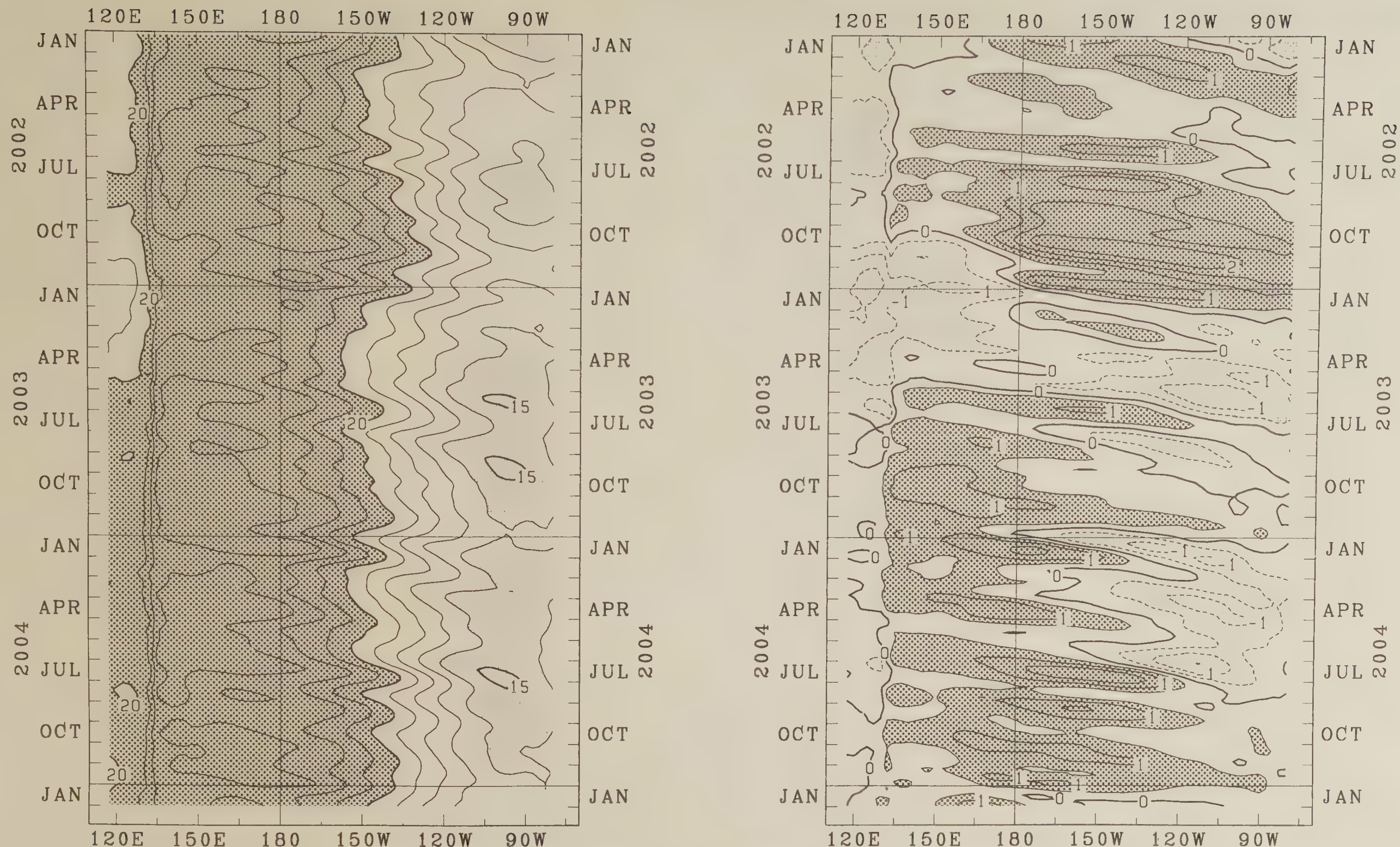
第1表　太平洋熱帯域の大気及び海洋の監視指数

Table 1 Atmospheric and oceanic monitoring indices in the tropical Pacific Ocean



第 27 図　赤道に沿った海面水温（左）および偏差（右）の時間-経度断面図

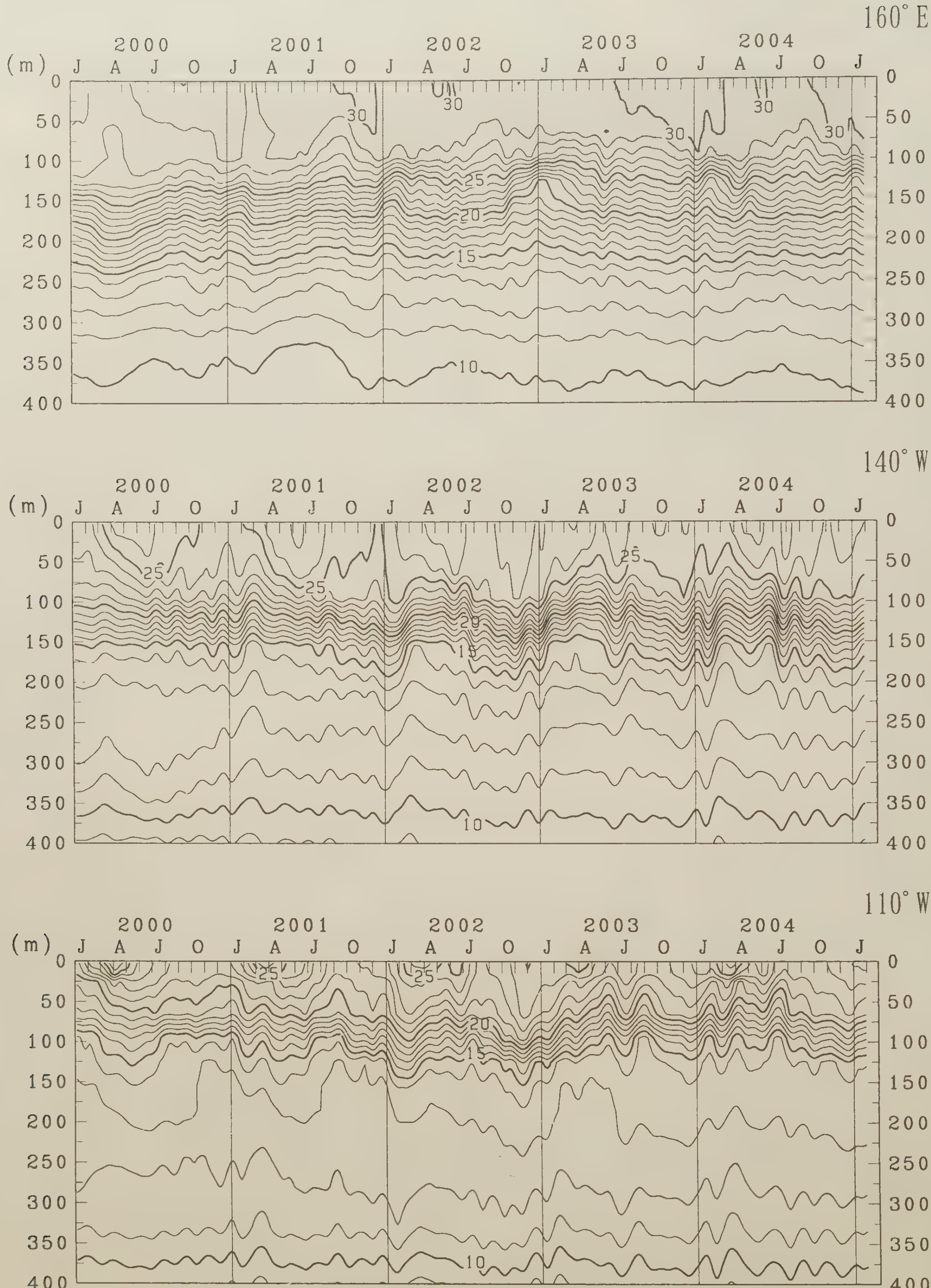
Fig. 27　Time-longitude sections of SSTs (left) and anomalies (right) along the equator (2 °N-2 °S) in the global ocean. Contour interval is 1 °C (left) and 0.5 °C (right). Values greater than 28 °C (+0.5 °C) are shaded and values less than 23 °C (-0.5 °C) are spotted in the left (right) panel. Dashed contours indicate negative anomalies in the right panel. Anomalies are computed from 1971-2000 base period means.



第28図　太平洋の赤道に沿う海洋表層の貯熱量（左）及び偏差（右）の時間－経度断面図

Fig. 28 Time-longitude sections of ocean heat content in the upper 260 m along the equator (left) and anomalies (right) in the Pacific Ocean. Data are derived from the Ocean Data Assimilation System of JMA. Contour interval is 1°C (left) and 0.5°C (right). Values greater than 20°C (+0.5°C) are shaded and values less than 16°C (-0.5°C) are spotted in the left (right) panel. Dashed contours indicate negative anomalies in the right panel. Anomalies are computed from 1987-2003 base period means.

Time-depth Sections of Equatorial Subsurface Temperature



第29図　太平洋赤道域の表層水温の時間－深度断面図

（上：西部、中：中部、下：東部）

Fig. 29 Time-depth sections of equatorial subsurface temperature for the western Pacific (top, 160°E), the central Pacific (middle, 140°W) and the eastern Pacific (bottom, 110°W). Data are derived from the Ocean Data Assimilation System of JMA. Contour interval is 1°C. Values greater than 28°C are shaded.

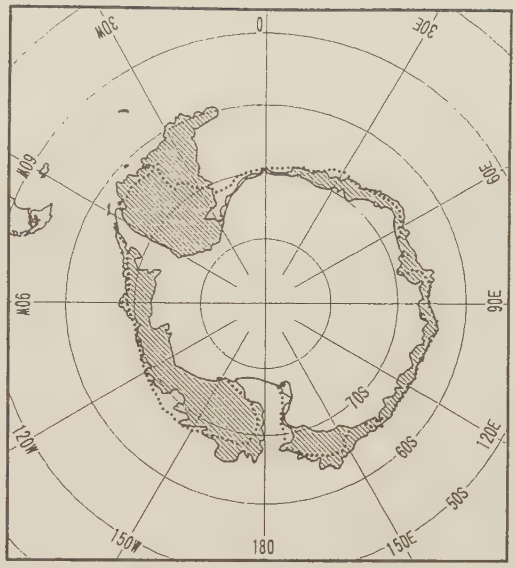


第30-1図　北極域の海氷図（2005年 1月18日）

Fig.30-1 Sea ice chart in the Arctic on 18 Jan. 2005.

The shaded area represents the sea ice extent. The dotted line denotes the mean ice edge averaged for the period from 1972 through 1990.

The data source is the National Ice Center (USA).

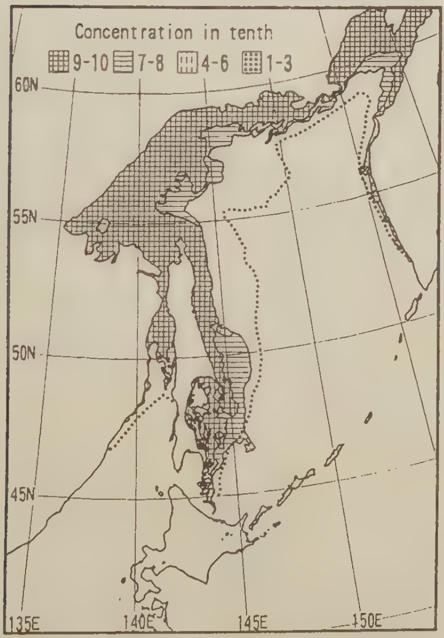


第30-2図　南極域の海氷図（2005年 1月17日）

Fig.30-2 Sea ice chart in the Antarctic on 17 Jan. 2005.

The shaded area represents the sea ice extent. The dotted line denotes the mean ice edge averaged for the period from 1973 through 1990.

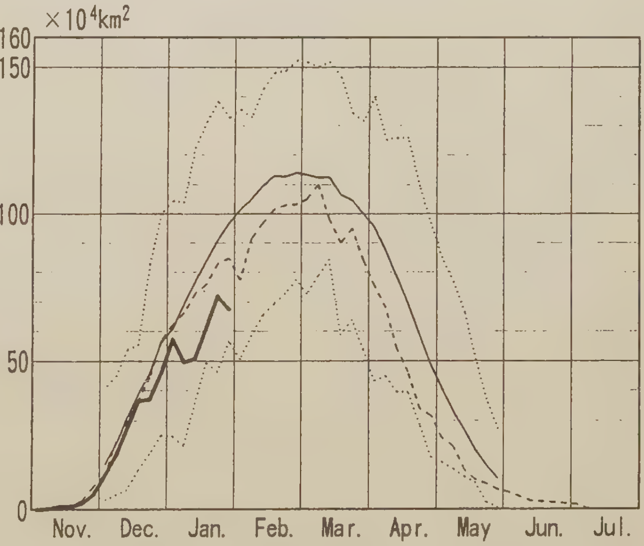
The data source is the National Ice Center (USA).



第30-3図 オホーツク海の海氷図（2005年 1月15日）

Fig.30-3 Sea ice chart in the Sea of Okhotsk on 15 Jan. 2005.

The dotted line denotes the mean ice edge averaged for the period from 1971 through 2000.



第30-4図 オホーツク海の海氷域面積

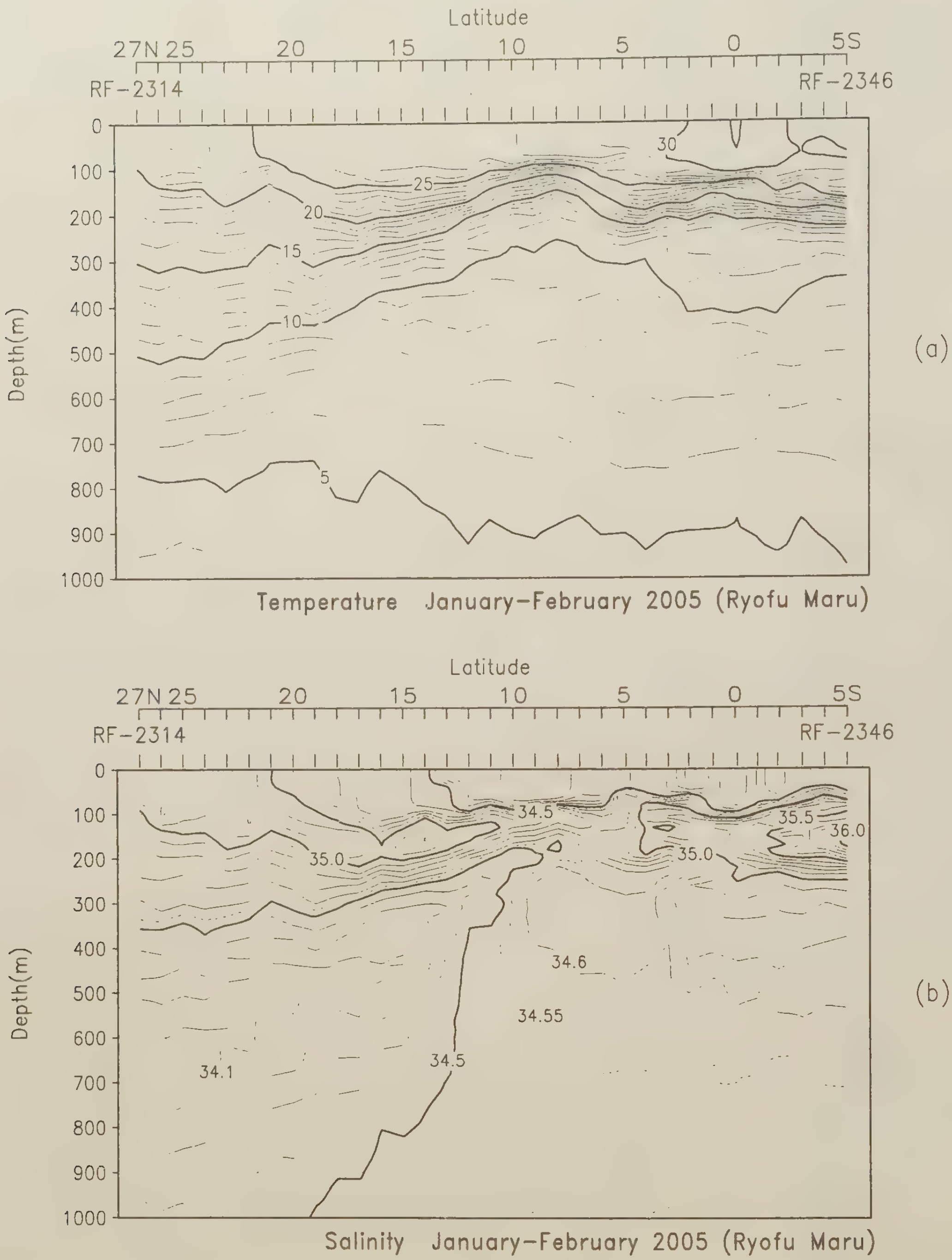
Fig.30-4 Time series of 5-day sea ice area in the Sea of Okhotsk.

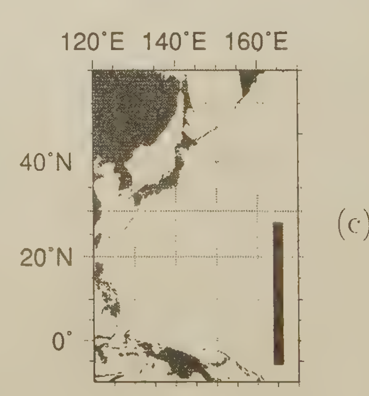
━━━━━ : current season (2004/2005)

───── : mean extent (1971–2000)

·········· : maximum or minimum extent (1971–2004)

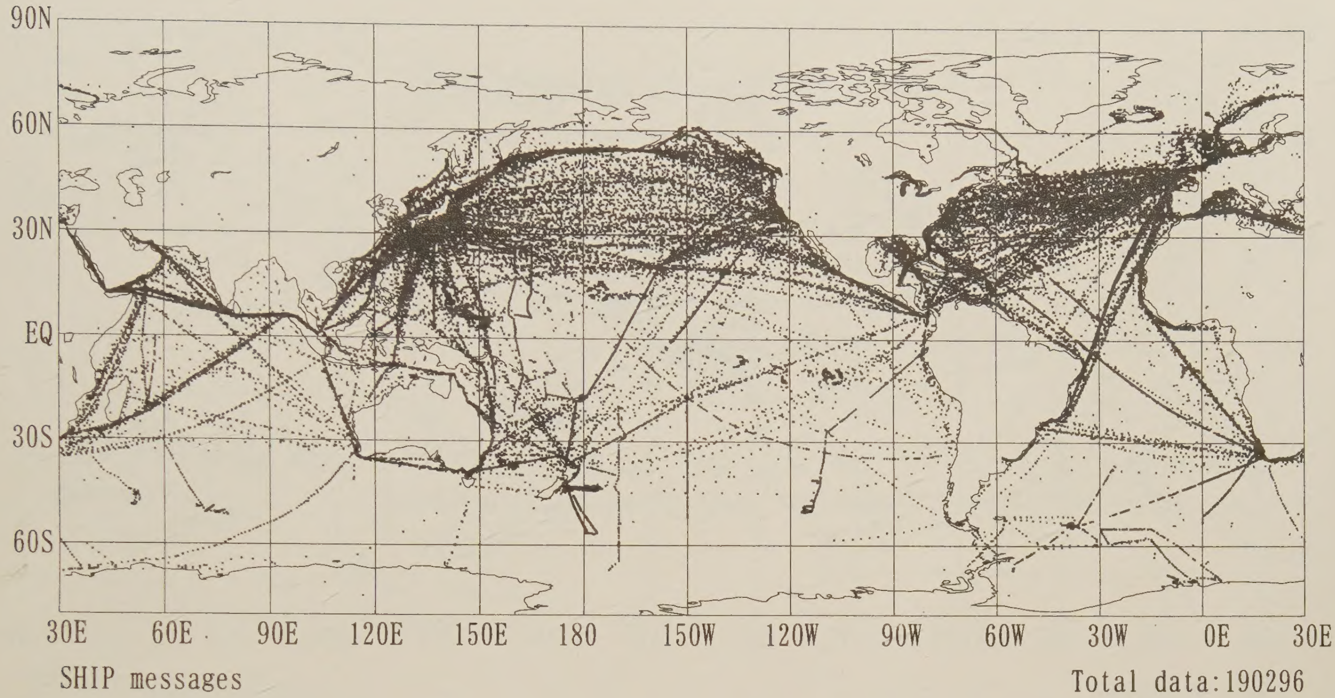
- - - - - - : last season (2003/2004)

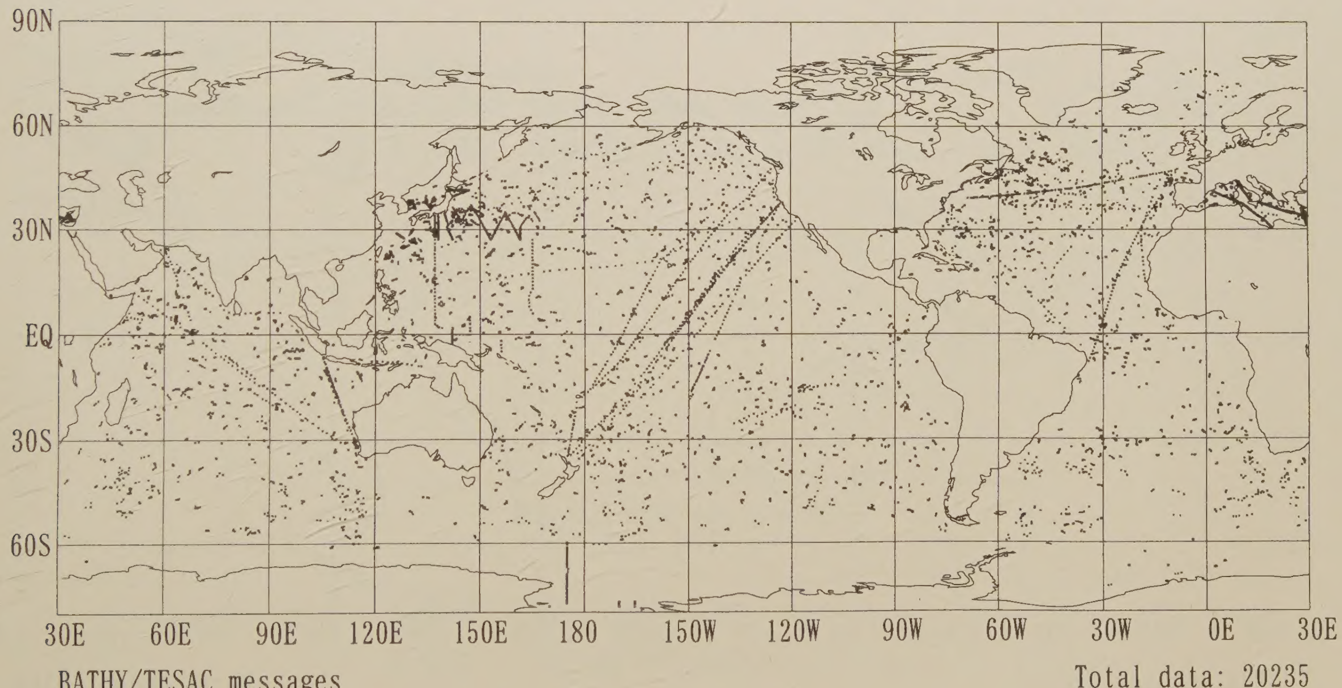




第 31 図 気象庁凌風丸による東経 165 度に沿った鉛直断面図. (a) 水温 (2005 年 1〜2 月), (b) 塩分 (2005 年 1〜2 月), (c) 観測位置図.

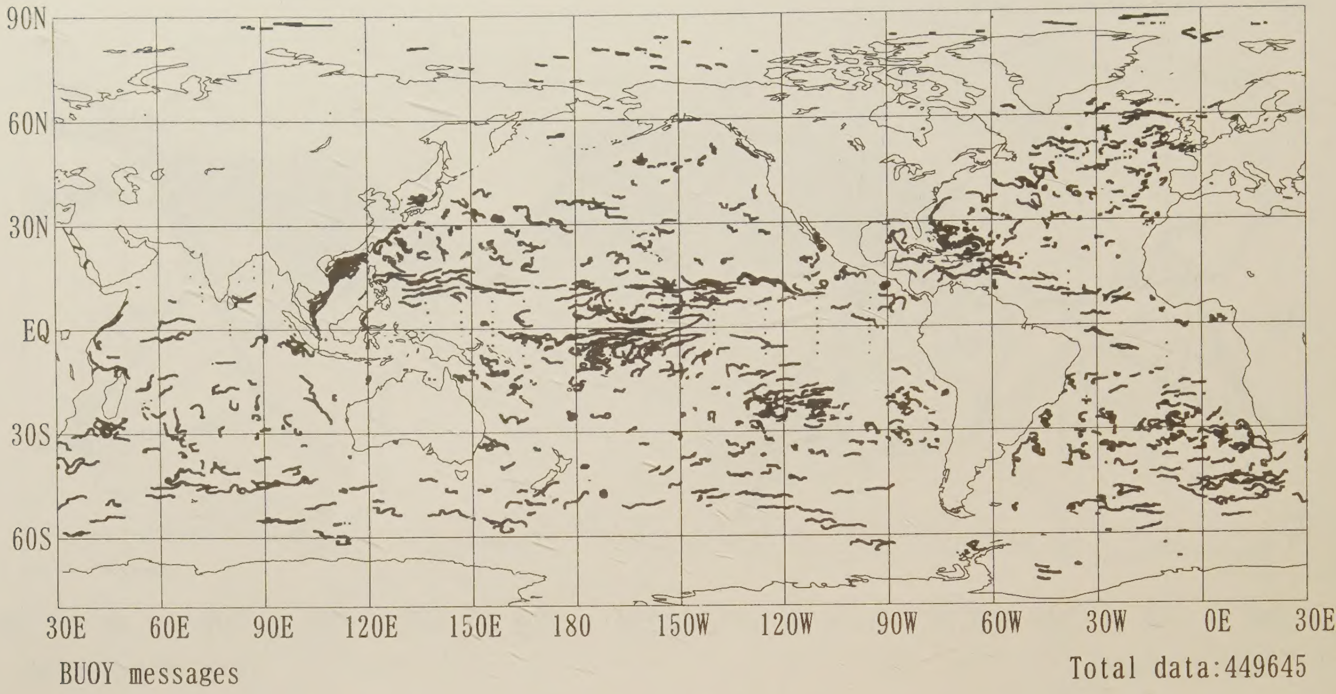
Fig. 31 Vertical sections along 165°E by R/V Ryofu Maru. (a) Water temperature observed in January-February 2005, (b) Salinity observed in January-February 2005, (c) Location of observations along 165°E.

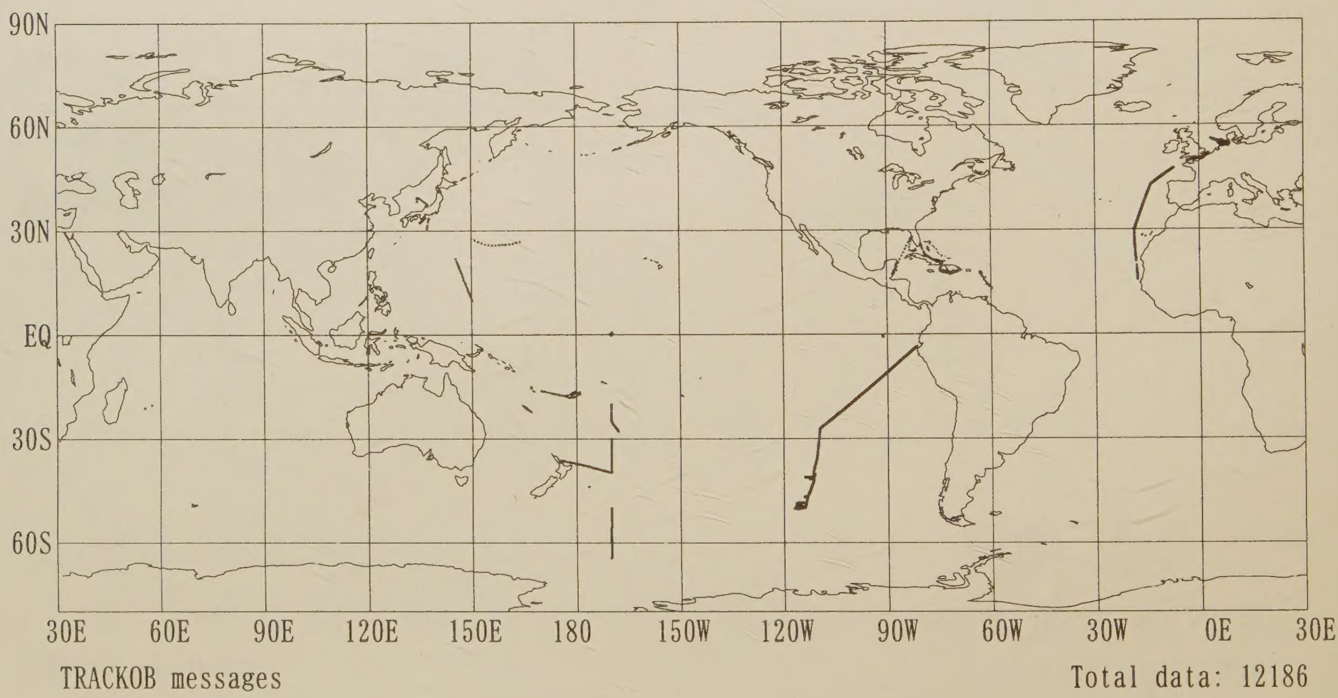




第32-1図　測点分布図(2005年 1月)

Fig. 32-1 Geographical distribution of SHIP messages (top) and BATHY/TESAC messages (bottom) for January 2005.





第32-2図　測点分布図(2005年 1月)

Fig. 32-2 Geographical distribution of BUOY messages (top) and TRACKOB messages (bottom) for January 2005.

気象庁海洋月報

Monthly Ocean Report

January 2005 (No. 145)

本月報掲載の2005年1月のプロダクトには、気象庁が観測したデータ及びGTS（全球気象通信網）を通じて入手した国際気象通報式による通報のほか、下記の機関等から提供いただいたデータを使用しています。御礼申し上げます。

防衛庁、水産庁、海上保安庁

水産総合研究センター

海洋研究開発機構、宇宙航空研究開発機構

東北大学、東京大学

水産試験場等（岩手県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、東京都、富山県、福井県、愛知県、三重県、京都府、和歌山県、鳥取県、山口県、高知県、佐賀県、宮崎県）

（順不同）

平成１７年２月２１日発行

編集兼発行者　気　象　庁
東京都千代田区大手町１－３－４

印刷所　有限会社　進英プリント
東京都渋谷区代々木 1-38-19